

令和2年度 入学者選抜要項

インターネット出願について

名古屋大学では、『一般入試』及び『大学入試センター試験を課す推薦入試』において、インターネット出願を導入しています。

これに伴い、『一般入試』及び『大学入試センター試験を課す推薦入試』については、冊子体での学生募集要項の配付は行いませんので、ホームページから閲覧またはダウンロードしてください。

なお、7月中旬からセンター試験を課さない推薦入試学生募集要項（文学部）を、9月中旬から私費外国人留学生募集要項を配布します。

(37頁「Ⅴ 募集要項、大学案内及び学部紹介冊子の請求」を参照)

名古屋大学ホームページ (<http://www.nagoya-u.ac.jp/>) → 入学案内 → 学部募集要項／大学案内など → 大学案内・選抜要項・募集要項・インターネット出願)



名古屋大学

目 次

	頁
名古屋大学の教育を支える3つの方針	2
各学部の入学者受入れ・選抜の方針（アドミッション・ポリシー）	3
I 募 集 人 員	9
II 本学学部間の併願（一般入試）	10
III 出 願 資 格（一般入試）	10
IV 選 抜 方 法 等	11
1. 一般入試	11
2. その他の入試	12
3. 出願に当たっての留意事項	12
4. 入学者選抜方法等（一般入試）	14
5. 入学者選抜の実施教科・科目等	16
6. 入学者選抜方法等（その他の入試）	22
7. 大学入試センター試験を課す推薦入試	23
8. 大学入試センター試験を課さない推薦入試	32
9. 私費外国人留学生入試	33
10. 国際プログラム群学部学生入試（10月入学）	36
V 募集要項、大学案内及び学部紹介冊子の請求	37
VI 名古屋大学の概要	38
VII 令和3年度以降の入学者選抜方法について	43
照会先一覧	巻末

名古屋大学の教育を支える3つの方針

●名古屋大学の教育の基本理念と育成する人間像

名古屋大学は「**学術憲章**」(2000年制定)で、「名古屋大学は、自由闊達な学風の下、人間と社会と自然に関する研究と教育を通じて、人々の幸福に貢献することを、その使命とする。とりわけ、人間性と科学の調和的発展を目指し、人文科学、社会科学、自然科学をともに視野に入れた高度な研究と教育を実践する」と、その使命を定めています。さらに「**学術憲章**」では「**研究と教育の基本目標**」として、「(1)名古屋大学は、創造的な研究活動によって真理を探究し、世界屈指の知的成果を産み出す。(2)名古屋大学は、自発性を重視する教育実践によって、論理的思考力と想像力に富んだ勇気ある知識人を育てる」という基本理念を掲げています。

この「**学術憲章**」に示される基本理念の下で、名古屋大学は日本における基幹総合大学の一つとして、創造的な教育・研究活動を通じ、豊かな文化の構築と科学・技術の発展に寄与してきました。21世紀に入り6名のノーベル賞受賞者を輩出するなど世界屈指の研究成果を生み出すとともに、既存の権威にとらわれない自由闊達な学風の下、多数の進取の気性に富んだリーダー人材を育成してきています。名古屋大学はこれらの人材や知的成果を広く社会に提供するための開かれた大学づくりに努めています。冒頭で述べたように、「**勇気ある知識人**」を育成する人間像として示しています。

「**勇気ある知識人**」とは、責任感をもって社会に貢献しようとする高い志とグローバルな視野をそなえ、幅広い教養と高い専門性を身につけ、人々の幸福や持続可能な社会の発展を妨げる諸問題の解決に積極的に寄与できる人材を言います。このような真の勇気と知性を持ち、未来を切り拓いていける人が、名古屋大学が育成しようとしている人間像なのです。

この「**勇気ある知識人**」を支える力となるのが、十分な知識・技能、主体的な創造性、立ち向かう探究心です。こうした優れた資質・能力を持った人を、名古屋大学は、多面的な学術研究活動と自発性を重視する教育実践によって育成しています。

●3つの方針に基づく大学教育の質の向上

名古屋大学では、このような教育を適切に実施するため、①卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)、②教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)、③入学者受入れ・選抜の方針(アドミッション・ポリシー)という3つの方針を学士課程及び大学院課程において定め、広く学内外に向けて公表しています。

これらの方針は、名古屋大学の教職員にとっては、大学がめざす教育を実現するための指針であり、つねに立ち戻って教育のあり方を点検するための指標でもあります。名古屋大学への入学を志望する者にとっては、入学後に期待できる教育のあり方や、入学までに身につけておくべき素養について知るための情報源となります。また、名古屋大学に在学する学生にとっては、本学で提供されている教育が何をめざしているのかを普段から意識するための手がかりとなります。さらに卒業生や修了生の活躍の場となる社会にとっては、名古屋大学がどのような資質・能力をそなえた人材を育てているのかを理解する拠りどころとなります。

これら3つの方針は、相互に密接に関連してこそ、その真価を発揮します。名古屋大学では、教育の基本理念と育成をめざす人間像を起点として、3つの方針を一体的に定めています。そして、このように一体的に定められた3つの方針に照らして、本学の教育のあり方を自己点検・評価し、教育の質を向上させていく取組を積極的に進めています。

[学士課程]

卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

名古屋大学は、各学部の教育目標と基準に沿った資質・能力の卒業資格を満たした者に、卒業を認定し、学士の学位を授けます。名古屋大学の学位は、真の勇気と知性を持ち、未来を切り拓いていく「**勇気ある知識人**」として、それぞれの学術分野で、十分な知識・技能、主体的な創造性、立ち向かう探究心が培われたことを証します。

名古屋大学では、学部・学科ごとに、学術分野の特徴に基づき、社会からの期待に応えるために育成する人間像を教育目標として設定しており、それに基づく基準を定めています。学士の学位は、各学部・学科のカリキュラムの履修を通して、その基準に対応した資質・能力を身につけた学生に対して授与されます。

教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

名古屋大学は、高度で幅広い教養を育むための教養教育と、飽くことなき探究心の涵養と新たな知の主体的創造につながる専門教育との二本柱からなる体系的な教育課程により、学生を育てます。多様な授業形態の組み合わせによる教育課程の展開と自発的な学修の促進を図り、学術分野の特徴を活かした、教育実践及び学修指導を適切に実施します。

名古屋大学では、学部・学科ごとに教育目標として設定した、育成する人間像に対応する資質・能力を培うためにふさわしい教育課程を編成し、実施しています。

入学者受入れ・選抜の方針(アドミッション・ポリシー)

名古屋大学は、未来の「**勇気ある知識人**」を目指す人を国内外に求めます。各学部・学科の学術分野の特徴に基づき、基礎的な学力とそれを活用する能力、さらにそれを発展させようとする意欲や態度を適正に評価して選抜する入試を実施します。

名古屋大学では「**学術憲章**」に掲げているように、「**勇気ある知識人**」の育成を目指しています。「**勇気ある知識人**」として必要な資質・能力は、大学教育での学びだけで培われるわけではありません。中等教育で身に付けた土台の上に立ってこそ、**勇気ある知識人**への成長が可能になります。そのため、名古屋大学では、基礎的な学力とそれを活用する能力、さらにそれを発展させようとする意欲や態度を備える人を国内外に求めています。

各学部・学科の特徴に基づき、多様な評価方法を適宜組み合わせ入試を実施し、ひとりひとりの学生を選抜します。

各学部の入学者受入れ・選抜の方針（アドミッション・ポリシー）

文学部

（1）入学者受入れの方針

文学部では、養成する人材像とディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを踏まえ、「人文学分野の研究に取り組むのに必要な基礎的な学力を備え、人間の営為としての言語・文化・歴史に深い関心を持ち、社会・環境など現代社会が抱える諸問題を考えることに意欲がある人」を入学者として選抜します。

（2）選抜の基本方針

○一般入試

アドミッション・ポリシーに適合した人材を選抜するため、調査書、大学入試センター試験の成績および個別学力検査の成績を総合的に判断し選抜を行います。「人文学分野の研究に取り組むのに必要な基礎的な学力」は大学入試センター試験、個別学力試験で判定します。個別学力検査においては、論理的な思考力も人文学分野の研究に取り組むのに必要な基礎的な学力の一部であることから、国語、地歴、外国語に加えて、数学を課しています。「人間の営為としての言語・文化・歴史に対する深い関心」や「社会・環境など現代社会が抱える諸問題を考える意欲」については、調査書を含めて総合的に判定します。

○推薦入試（大学入試センター試験を課さない）

文学部に対する明確な志向と勉学の熱意を持ち、学習成績・人物ともに優れた者を対象として、アドミッション・ポリシーに適合した人材を選抜するため、調査書、志願理由書等の提出書類、小論文の成績および面接の結果を総合的に判断し選抜を行います。「人文学分野の研究に取り組むのに必要な基礎的な学力」は提出書類および面接によって判定します。「人間の営為としての言語・文化・歴史に対する深い関心」や「社会・環境など現代社会が抱える諸問題を考える意欲」については、提出書類、小論文、面接によって総合的に判定します。なお、出願の際は、外国語の能力を示すスコアや国際バカロレアのスコア、SSH、SGH における活動状況等に関する書類を提出することができます。

教育学部

（1）入学者受入れの方針

本学部は、人間の成長発達と教育をめぐるさまざまな問題を研究の対象とする教育発達科学の知見と方法を総合的に学ぶことによって、論理的・批判的思考力と判断力、協働的コミュニケーション能力を有し、省察と探究の習慣を自ら育むことができ、人間と社会の諸問題に絶えず関心をよせ、勇気と熱意をもって向き合い、問題解決に協働的に取り組むことのできる人材、さらには、社会的正義の感覚を有し人類と社会の調和的発展とウェルビーイングに貢献できる人材の育成を目的としています。

上記の目的を理解したうえで本学部への進学を志望する者には、次のような能力や資質が求められます。

- 1) 人間発達科学を学ぶための基礎的な学力
- 2) 人間の成長発達と教育をめぐる多様な事象と問題に対する関心と問題意識
- 3) 人間と社会の諸問題に対して深い関心を持ち、教育と発達および社会的正義の視点から探究し、問題解決を志向し、人類と社会の調和的発展に貢献しようという意欲と熱意

（2）選抜の基本方針

○一般入試

人間発達科学を学ぶための基礎的な学力を評価するため、大学入試センター試験と個別学力検査（国語、数

学、外国語)により選抜を実施します。

○推薦入試(大学入試センター試験を課す)

人間発達科学を学ぶための基礎的学力を評価するため大学入試センター試験を課すとともに、人間の成長発達と教育をめぐる多様な事象と問題に対する関心と問題意識、さらには人間と社会の諸問題について教育と発達および社会的正義の視点から探究し、問題解決を志向し、人類と社会の調和的発展に貢献しようという意欲と熱意を評価するため、提出書類と「小論文」、面接の総合評価により選抜を実施します。

法学部

(1) 入学者受入れの方針

法学部は、社会のルールとしての法律学・政治学を学ぶことを通じて、大局的見地に立って的確な価値判断・意思決定を行い、グローバル化社会のさまざまな問題の解決に向けて積極的に寄与し、未来を切り拓いていくことを目指し、かつ、そのために必要となる資質や能力を備えた人を、国内外に求めます。

(2) 選抜の基本方針

○一般入試

幅広い基礎学力を大学入試センター試験(5または6教科8科目、900点)により評価するとともに、これまでに身につけた基礎学力を活用する能力を個別学力検査(3科目、600点)により評価します。個別学力検査では、とりわけ法律学を学ぶ上で重要となる論理的思考を発展させるために必要な学力を数学(200点)により、また、グローバル化社会のさまざまな問題の解決に向けて積極的に寄与するために必要な意欲や能力を、外国語(200点)および高等学校の地理歴史、公民の学習を前提とする小論文(200点)により評価します。

○推薦入試(大学入試センター試験を課す)

幅広い基礎学力を大学入試センター試験(5または6教科8科目)や調査書等により評価するとともに、これまでに身につけた基礎学力を発展させ、グローバル化社会のさまざまな問題の解決に向けて積極的に寄与するために必要な意欲や能力を、志願理由書や推薦書、高校時の学習成果やさまざまな活動への取組状況を示す証明書等に照らしながら、面接により評価します。

経済学部

(1) 入学者受入れの方針

経済学・経営学の専門的な知識を学ぶための基礎的な学力を備え、ダイナミックに変化する現代の経済社会への鋭い関心を持って、経済活動に関わる諸問題を理論的・実証的に探究することができる学生の入学を求めます。

(2) 選抜の基本方針

○一般入試

経済学・経営学の専門的な知識を学び、経済活動に関わる諸問題を理論的・実証的に探究するための基礎的な学力を備えた者を、大学入試センター試験と国語・数学・外国語の3教科の個別学力検査により選抜します。

○推薦入試（大学入試センター試験を課す）

経済学・経営学に対する勉学意欲と基礎的な学力を備え、かつ①個性的・意欲的な指導力、②特に秀でた学力、③課外活動における特筆すべき成果、のいずれかの特色を一つ以上持ち、学習成績・人物ともに優れ、学校長等からの推薦を受けた者を選抜します。基礎的な学力を大学入試センター試験、勉学意欲と特色を書類審査と面接を通じて評価します。

情報学部

（1）入学者受入れの方針

情報学部は、情報学の各分野の研究者になりうる人材のみならず、情報学を駆使して、新しい価値の創出、課題の発見と解決、情報社会の基盤的仕組みの構想・設計等ができる人材、あるいは、企業や政府機関・国際機関等の組織を情報の観点からマネジメントできる人材、情報学に通じた科学諸分野の研究者になりうる人材を養成することを目標としています。そのため、このような人材育成の基盤となる次のような資質を持った多様な学生を、幅広く対象として入学者選抜を実施します。

ア 幅広い情報学の知識とスキルを身につけるために必要な、十分な基礎的学力を有していること。（学部共通）

イ 情報の観点から世界を理解し、情報技術を駆使して諸科学を革新しようとする意欲を有すること。（主に自然情報学科）

ウ 社会の抱える問題と未来の社会像について問題意識をもち、情報学を用いて問題を解決し価値を創造しようとする意欲を有すること。（主に人間・社会情報学科）

エ 社会と調和し、社会に価値をもたらす情報技術を創造しようとする意欲を有すること。（主にコンピュータ科学科）

自然情報学科、人間・社会情報学科、コンピュータ科学科への多様な資質と興味を持った学生を獲得するために学科ごとに選抜します。

（2）選抜の基本方針

○一般入試

情報学部の一般入試による募集人員は113名です。入学者選抜については、大学入試センター試験及び本学が実施する個別学力検査等により、情報学部が文理融合を特色とする学部であることから、大学入試センター試験においては、幅広い知識と能力を担保するために、国語、地歴・公民、数学、理科、外国語から5教科または6教科について7科目または8科目を課しています。また、個別学力検査等では、全学科に共通して外国語を課すとともに、各学科においては人材養成をする上で基礎となる理解力や素養を判断できる科目を課しています。

自然情報学科

特定分野のサイエンスに深い関心を抱き、情報学を用いてそれをさらに一歩進めたいと願う学生を求めている、このような、ある意味で「尖った」サイエンス志向の学生を受け入れるため、個別学力検査において理科4科目から1科目選択とします。入学後の自然情報学科のカリキュラムを通じて広く学ばせることにより、こうした学生の関心を他分野そして社会へとより広げていくことを目指しています。

人間・社会情報学科

社会とそれを構成する人間に関心をもつ学生を求めています。人間・社会情報学科は社会情報系と心理・認知科学系からなりたっています。情報科学技術を人文社会学や心理・認知科学に適用することか

ら、情報学に理解のある文系学生と人文社会学に興味を持つ理系学生の双方を受け入れるため、個別学力検査において地理歴史と数学の選択としています。

コンピュータ科学科

情報技術の創造による社会貢献というテクノロジー志向の学生を求め、技術創造力の向上を目指す教育を行うために、理科全般への関心をもつ学生を対象とすることが有効であると考えています。したがって、個別学力検査において、物理を含む理科4科目のうち2科目を指定します。物理を必須とするのは、物理が高校理科の科目のうちでは、コンピュータ科学科の教育内容に最も親近性が高いこと等を考慮しています。

○推薦入試（大学入試センター試験を課す）

情報学部に対する明確な志向と勉学の熱意を持ち、学習成績・人物ともに優れ、特に情報を活用して人類の課題に挑む意欲のある者を選抜します。

情報学部の推薦入試による募集人員は22名とし、選抜方法は、学科共通とします。選抜方法は、第1次選考と第2次選考により行い、第1次選考は、提出された志願理由書、学校長の推薦書及び調査書並びに大学入試センター試験の成績により第1次選考合格者（面接受験者）を決定します。大学入試センター試験の利用科目は、一般入試と同じ科目とします。

第2次選考は、第1次選考合格者に対し、学科ごとに面接を実施し、合格者を決定します。なお、多面的・総合的な選抜を強化するために、上記の提出書類の他に任意で自己評価一覧の提出を認めることとし、自己評価一覧に記載する事項は、英語やその他の外国語の能力を示すスコア（TOEFL・IELTS・TOEIC・英検・ドイツ語検定等）、国際標準の入学資格や国際バカロレアのスコア、各種検定の認定書、各種コンテストにおける入賞を証明する書類、社会的活動での活動を証明する書類等であり、第2次選考の参考とします。

理学部

（1）入学者受入れの方針

自然界を貫く真理の探究に挑むため、総合的な基礎学力に加えて理学の諸分野における幅広い教養と深い知識を持ち、チャレンジ精神と知的好奇心に満ちあふれた、瑞々しい創造力をもつ人を求めています。

（2）選抜の基本方針

○一般入試

一般入試では、大学入試センター試験により総合的な基礎学力を測り、個別学力検査では「数学」「理科」「外国語」及び「国語」を課すことにより、理学の諸分野における教養の幅広さと知識の深さに加えて、読解力、表現力、論理的思考力を測ります。

○推薦入試（大学入試センター試験を課す）

推薦入試では、大学入試センター試験により総合的な基礎学力を測ると共に、提出書類により高校での学習成果や様々な活動への取組状況を、面接により理学に対するチャレンジ精神や知的好奇心、表現力、説明力を測ります。

医学部医学科

(1) 入学者受入れの方針

豊かな人間性、高い倫理性、科学的論理性を備え、創造力に富む医師・医学研究者へと成長するために必要な能力と資質を備えた学生を求めています。そのために、幅広い教養及び十分な基礎学力のみならず、知的好奇心や科学的探究心をもって新たな分野を開拓するような意欲を持ち、物事を多面的に捉え深い洞察力を持って発展させることができる思考力を有し、人間に対する共感や高い協調性といった医学に携わる者としての適性を兼ねそなえた入学者を選抜します。

(2) 選抜の基本方針

○一般入試

センター試験により基礎学力の評価を行う。さらに前期日程においては、個別学力検査により幅広い教養と知識について、面接により将来の医師、医学研究者としての適性について評価します。一方、後期日程においては面接試験にて県内の地域医療を担う意欲をもった人物を重視した選抜を行います。

○推薦入試（大学入試センター試験を課す）

センター試験による基礎学力の評価のみならず、面接試験により、医学研究者への志向性を持ち、将来研究医を目指す能力と資質を有した人物を重視した選抜を行います。

医学部保健学科

(1) 入学者受入れの方針

保健学科では、未来の「勇気ある知識人」を目指す人を国内外に求めます。保健学科の学術分野の特徴に基づき、基礎的な学力とそれを活用する能力、さらにそれを発展させようとする意欲や態度を適正に評価して選抜する入試を実施します。入学者が次のような資質を有することを期待します。

1. 生命への畏敬の念、弱者への思いやり
2. 科学的探究心と積極的意欲並びに行動力
3. 多様な価値観を受け入れる寛容さ
4. ボランティア精神とフロンティア精神
5. 穏やかな情緒と協調性

(2) 選抜の基本方針

○一般入試

前期日程により選抜します。大学入試センター試験では、国語（配点200点）・地理歴史もしくは公民（100点）・数学（200点）・理科（200点）・外国語（200点）により、基礎的な学力を評価します。個別学力検査では、数学（配点500点）・理科（500点）・外国語（500点）により、理解力・論理的思考力などを通して問題解決の思考力を有することを評価し、これらを総合的に判断します。

○推薦入試（保健学科全専攻）（大学入試センター試験を課す）

第1次選考では提出された志願理由書、推薦書、調査書並びに大学入試センター試験の成績により、基礎的な学力や保健学分野への意欲を評価します。第2次選考では、口頭試問による面接により保健学分野への適性や積極性を評価し、これらを総合的に判断します。

工学部

(1) 入学者受入れの方針

自然科学に対する強い興味と、人間や社会に対する幅広い関心を持ち、工学を学ぶための基礎学力と素養をもった意欲のある人を求めています。

(2) 選抜の基本方針

○一般入試

入学者受入れの方針にしたがって、特に、工学を学ぶための基礎学力と素養をもった意欲のある人材を選抜します。具体的には、大学入試センター試験、個別学力検査、調査書により、各学科において基礎的な学力を評価し、選抜します。

○推薦入試（大学入試センター試験を課す）

入学者受入れの方針にしたがって、特に、自然科学に対する強い興味と、人間や社会に対する幅広い関心をもつ人材を選抜します。具体的には、各学科における口頭試問、志願理由書、推薦書、調査書による該当分野を学ぶ意欲や態度の評価に、大学入試センター試験による基礎的な学力評価を加えて、総合的に選抜します。

農学部

(1) 入学者受入れの方針

「食・環境・健康」に関わる学問を探究するために必要な基礎的学力を有し、それぞれの専門分野で指導者や専門家として知識と技術を社会に役立てようという志をもつ人材を求めています。

(2) 選抜の基本方針

○一般入試

一般選抜においては、理科にやや重点を置き、大学入試センター試験（5教科7科目）とともに、数学・理科・外国語の個別学力検査を課します。基礎知識・理解力・論理的思考力・応用力などを総合的に評価し、選抜します。

○推薦入試（大学入試センター試験を課す）

推薦入学者選抜においては、大学入試センター試験（5教科7科目）、提出書類、面接試験の評点をもとに、志望学科に対する明瞭な志向と将来を見据えた明確な勉学目的を持ち、学習成績・人物ともに優れた人を選抜します。

I 募 集 人 員

学 部 ・ 学 科 等		一 般 入 試		そ の 他 の 入 試		合 計	
		前 期 日 程	後 期 日 程	推 薦 入 試			
				セン ー ー 試 験 を 課 す 入 試	セン ー ー 試 験 を 課 さ ない 入 試		
文 学 部		110			15	125	
教 育 学 部		55		10		65	
法 学 部		105		45		150	
経 済 学 部		165		40		205	
情 報 学 部	自 然 情 報 学 科	30		8		38	
	人 間 ・ 社 会 情 報 学 科	30		8		38	
	コ ン ピ ュ ー タ 科 学 科	53		6		59	
	小 計	113		22		135	
理 学 部		220		50		270	
医 学 部	医 学 科	90	0※	10※		100	
	保 健 学 科	看 護 学 専 攻	45		35		80
		放 射 線 技 術 科 学 専 攻	30		10		40
		検 査 技 術 科 学 専 攻	25		15		40
		理 学 療 法 学 専 攻	13		7		20
		作 業 療 法 学 専 攻	13		7		20
		計	126		74		200
	小 計	216	0※	84※		300	
工 学 部	化 学 生 命 工 学 科	90		9		99	
	物 理 工 学 科	75		8		83	
	マ テ リ ア ル 工 学 科	99		11		110	
	電 気 電 子 情 報 工 学 科	107		11		118	
	機 械 ・ 航 空 宇 宙 工 学 科	135		15		150	
	エ ネ ル ギ ー 理 工 学 科	36		4		40	
	環 境 土 木 ・ 建 築 学 科	72		8		80	
	小 計	614		66		680	
農 学 部	生 物 環 境 科 学 科	27		8		35	
	資 源 生 物 科 学 科	43		12		55	
	応 用 生 命 科 学 科	66		14		80	
	小 計	136		34		170	
合 計		1,734	0※	351※	15	2,100	

【注】1. 「推薦入試」において、合格者又は入学手続者が募集人員に達しない場合には、その欠員分は、「一般入試」の募集人員に加えます。

【注】2. 「一般入試」の募集人員には、「私費外国人留学生入試」及び「国際プログラム群入試」の募集人員（若干名）を含みます。

※ 医学部医学科の後期日程及び推薦入試の募集人員は、暫定的な医学部定員増への延長申請を予定しており、後期日程5名、推薦入試12名となる予定です。確定次第、本学ホームページ等でお知らせします。

Ⅱ 本学学部間の併願（一般入試）

本学では、「前期日程」で試験を実施する全学部と「後期日程」で試験を実施する予定の医学部医学科との併願を認めます。

Ⅲ 出願資格（一般入試）

本学の一般入試に出願することができる者は、次の各号のいずれかに該当する者で令和2年度大学入試センター試験で本学が指定した教科・科目（「Ⅳの5. 入学者選抜の実施教科・科目等」16～21頁参照）を受験した者として。なお、その他の入試については該当の頁を参照してください。

- ① 高等学校又は中等教育学校を卒業した者及び令和2年3月卒業見込みの者
- ② 通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び令和2年3月修了見込みの者
- ③ 学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び令和2年3月31日までにこれに該当する見込みの者

これらの者は、次のとおりです。

ア 外国において学校教育における12年の課程を修了した者及び令和2年3月31日までに修了見込みの者、又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの

イ 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者及び令和2年3月31日までに修了見込みの者

ウ 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び令和2年3月31日までに修了見込みの者

エ 文部科学大臣の指定した者

オ 高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。）及び令和2年3月31日までに合格見込みの者で、令和2年3月31日までに18歳に達するもの

カ 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、令和2年3月31日までに18歳に達するもの

【注】 上記出願資格③のカにより出願する者は、個別の入学資格審査が必要となりますので下記の期限までに申請してください。

なお、審査対象、申請手続等の詳細については、本学のホームページ（<http://www.nagoya-u.ac.jp/>）→入学案内→学部入試の概要→入学資格個別審査のご案内→個別審査の審査対象（一般入試）で確認してください。

- ・大学入試センター試験出願時に、本学を志望する者
令和元年8月30日（金）[必着]
- ・大学入試センター試験出願の際、他大学の入学資格認定を受けた者で、その後本学に志望変更する者
令和2年1月20日（月）から令和2年1月24日（金）[必着]

後期日程（医学部医学科）への出願について

後期日程（医学部医学科）に出願することができる者は、上記の出願資格を有し、かつ、以下の要件のいずれかを満たす者として。

1. 入学志願者の出身高等学校又は中等教育学校が愛知県内であること
2. 入学志願者の保護者の現住所が出願時に愛知県内であること

Ⅳ 選 抜 方 法 等

本学の入学者の選抜は次のとおり実施します。

1. 一般入試

[前期日程]

選抜方法：大学入試センター試験、個別学力検査、調査書及び面接（医学部医学科のみ）により総合的に行います。（14頁参照）

実施学部：全学部（文学部、教育学部、法学部、経済学部、情報学部、理学部、医学部、工学部、農学部）

[後期日程]

選抜方法：大学入試センター試験、志願理由書、調査書及び面接により総合的に行います。

実施学部・学科：医学部医学科（予定）

※この選抜は、愛知県内の地域医療を担う人材の育成を目指すものです。（14～15頁参照）

(1) 出願期間

[前期日程・後期日程]

令和2年1月27日（月）から令和2年2月5日（水）16時必着

※なお、インターネット出願登録期間及び入学検定料払込期間については、募集要項で確認してください。

(2) 個別学力検査の日程等

① 実施期日

[前期日程]

令和2年2月25日（火） 2月26日（水）	全 学 部
2月27日（木）	医学部医学科

[後期日程]

令和2年3月12日（木）	医学部医学科
--------------	--------

② 実施教科・科目

個別学力検査の実施教科・科目及び大学入試センター試験・個別学力検査の配点は、16～21頁の「5. 入学者選抜の実施教科・科目等」のとおりです。

③ 合格者発表日

[前期日程]

令和2年3月7日（土）

[後期日程]

令和2年3月21日（土）

(3) 高得点者選抜

[前期日程]

① 工 学 部

工学部の合格者の決定に当たっては、大学入試センター試験及び個別学力検査の高得点者を次のとおり取り扱います。

i. 大学入試センター試験の高得点者選抜

各学科の前期日程募集人員の10%を限度として、個別学力検査の成績が定められた基準を上回る者について、第1志望学科【注】に限り、大学入試センター試験の成績によって選抜を行います。

ii. 個別学力検査の高得点者選抜

各学科の前期日程募集人員の10%を限度として、第1志望学科【注】に限り、大学入試センター試験の成績にかかわらず、個別学力検査の成績によって選抜を行います。

② 農 学 部

農学部の合格者の決定に当たっては、個別学力検査の高得点者について第1志望学科【注】に限り、各学科の前期日程募集人員の20%を限度として、大学入試センター試験の成績にかかわらず、個別学力検査の成績によって選抜を行います。

【注】工学部及び農学部では、第2志望学科までの志願を認めます。

(4) 2段階選抜

〔後期日程〕

医学部医学科の試験実施に当たっては、大学入試センター試験の成績が900点満点中720点以上の者を第1段階選抜の合格者とします。

2. その他の入試

〔大学入試センター試験を課す推薦入試〕

選抜方法：個別学力検査を免除し、大学入試センター試験、学校長等の推薦書、志願理由書、調査書、面接及び各学部が指定する事項に関する書類により総合的に行います。(22～32頁参照)

実施学部：教育学部、法学部、経済学部、情報学部、理学部、医学部、工学部、農学部

〔大学入試センター試験を課さない推薦入試〕

選抜方法：個別学力検査及び大学入試センター試験を免除し、学校長等の推薦書、志願理由書、調査書、面接、小論文及び学部が指定する事項に関する書類により総合的に行います。(22頁、32頁参照)

実施学部：文学部

※本学を含めた国公立大学の推薦入試（大学入試センター試験を課す場合、課さない場合を含めて）へ出願することができるのは、一つの大学・学部です。

〔私費外国人留学生入試〕

日本留学試験、英語検定試験（TOEFL 又は IELTS）及び本学が実施する入学試験（学部・学科ごとに異なる）並びに出願書類により総合的に行います。(33～36頁参照)

〔国際プログラム群学部学生入試（10月入学）〕

学力や学力以外の様々な項目に基づき、総合的に行います。(36頁参照)

3. 出願に当たっての留意事項

(1) 調 査 書（高等学校等の進路指導ご担当の方々へ）

本学では、学習成績概評がAに属する生徒のうち、人物、学力ともに特に優秀な者については、「学習成績概評」の欄に㊤と標示することを希望します。この場合、「備考」の欄にその理由を必ず明示してください。

(2) 第2志望学科(専攻)への志願

〔前期日程〕

工学部及び農学部では、第2志望学科までの志願を認めます。

医学部保健学科では、第2志望専攻までの志願を認めます。ただし、保健学科の各専攻は、それぞれ教育内容に特徴があることを十分考慮してください。選抜に当たっては、各専攻の募集人員の8割程度については、第1志望の志願者を対象に行います。その上で、2割程度については、第1志望及び第2志望の志願者を対象に行います。

(3) 障害のある者等の出願

障害のある者等で、受験上の配慮を必要とする者は、出願に先立ち、あらかじめ出願予定の入試種別、志望学部・学科(専攻)、障害等の状況、受験上の配慮を希望する事項等に志願者本人の連絡先を記載したもの(様式は自由、用紙はA4サイズ)に、①障害等に関する医師の診断書、障害者手帳等(写しでもよい)、②出身学校関係者の添書(学校における修学状況及び学習上の配慮状況等を記載したもので、様式は自由、用紙はA4サイズ)の2点の書類を添付し、下表により相談してください。

なお、大学入試センター試験の受験に際して受験上の配慮を受ける者は、大学入試センターから交付される決定通知書の写しを併せて添付してください。

また、入学後の修学に関して相談の希望がある者は、お問い合わせください。

入 試 種 別	照 会 期 限	照 会 先
一般入試(前期日程、後期日程) センター試験を課す推薦入試(教育、法、経済、情報、理、医、工、農学部)	令和元年12月27日(金)まで 【注】	巻末照会先一覧参照
センター試験を課さない推薦入試(文学部)	令和元年9月27日(金)まで	
私費外国人留学生入試	令和元年12月2日(月)まで	

【注】視覚・聴覚障害、体幹及び両上下肢の機能障害が著しい者で、大学入試センター試験において点字解答及び代筆解答を希望する者のうち、本学へ出願する者については、令和元年9月末日までに上記と同様の書類を提出し、相談してください。

4. 入学者選抜方法等（一般入試）

〔前期日程〕

選抜方法等 学部・学科名		個別学力検査等							個別学力検査等の日程	備考 〔欠員の 補充の 方法等〕	
		個別学力検査を課す	実技検査等			2段階選抜					
			面接を行う	小論文を課す	実技検査を課す	外国語におけるリスニングテストを課す	大学入試センター試験の成績により第1段階選抜を行うい、その合格者について更に必要な検査等を行う	第1段階の選抜による合格者数 定員に対する倍率 その他			
文学部	○	×	×	×	×	×	×	×	2月25日・26日	追加合格	
教育学部	○	×	×	×	×	×	×	×	2月25日・26日		
法学部	○	×	○	×	×	×	×	×	2月25日・26日		
経済学部	○	×	×	×	×	×	×	×	2月25日・26日		
情報学部	○	×	×	×	×	×	×	×	2月25日・26日		
理学部	○	×	×	×	×	×	×	×	2月25日・26日		
医学部	医学科	○	○	×	×	×	×	×	×		2月25日・26日・27日
	保健学科	○	×	×	×	×	×	×	×		2月25日・26日
工学部	○	×	×	×	×	×	×	×	2月25日・26日		
農学部	○	×	×	×	×	×	×	×	2月25日・26日		

〔注〕各欄のうち○印は該当する場合であり、×印は該当しない場合です。

〔後期日程〕

選抜方法等 学部・学科名		個別学力検査等							個別学力検査等の日程	備考 〔欠員の 補充の 方法等〕	
		個別学力検査を課す	実技検査等			2段階選抜					
			面接を行う	小論文を課す	実技検査を課す	外国語におけるリスニングテストを課す	大学入試センター試験の成績により第1段階選抜を行うい、その合格者について更に必要な検査等を行う	第1段階の選抜による合格者数 定員に対する倍率 その他			
医学部	医学科	×	○	×	×	×	○	×	【注】2	3月12日	追加合格

〔注〕1. 各欄のうち○印は該当する場合であり、×印は該当しない場合です。

〔注〕2. 大学入試センター試験の成績が900点満点中720点以上の者。

医学部医学科の後期日程について

国の施策に基づき、愛知県内の地域医療を担う人材を育成するため、本学医学部医学科において、後期日程試験により（注1）5名を募集予定です。

本選抜の出願要件は、（注2）愛知県内出身者で卒業後に愛知県内の地域医療に従事しようとする強い意欲を持つ者としてします。これには、愛知県内出身者の高校既卒者等も志願することができます。

本選抜で入学した者は、愛知県から月額15万円程度の奨学金貸与を受けることが必須となります。また、卒業後は、愛知県内の臨床研修指定病院における2年間の研修と、愛知県が指定する（注3）公的医療機関における7年間の勤務とを合わせて9年間の地域医療に従事することを義務としています。これに加え、愛知県内の基幹型臨床研修病院のプログラムに基づく臨床研修に参加すること、及び愛知県が策定する「キャリア形成プログラム」に参加することの義務を果たすことにより奨学金の返還が免除されます。

さらにカリキュラムについては、正規カリキュラムの一部科目の履修指定及び課外学習から構成される「地域医療に関するカリキュラム」の履修を義務付けています。正規カリキュラムにおいては、3年次の基礎医学セミナーや4年次の選択講義等で、地域医療教育学講座が担当する授業の選択が必須となります。また、課外実習として、地域医療セミナー（年6回程度開催）や愛知県主催の研修会への参加も義務付けられています。

なお、「地域医療に関するカリキュラム」は年度ごとに見直されるため、カリキュラム・課外学習等の変更があり得ます。

（注1） 募集人員は、暫定的な医学部定員増への延長申請を予定しており、5名となる予定です。確定次第、本学ホームページ等でお知らせします。

（注2） 後期日程（医学部医学科）に出願することができる者は、10頁の出願資格を有し、かつ、以下の要件のいずれかを満たす者としてします。

1. 入学志願者の出身高等学校又は中等教育学校が愛知県内であること
2. 入学志願者の保護者の現住所が出願時に愛知県内であること

（注3） 愛知県内の医師の確保が困難な地域に所在する公的医療機関のうち、知事が指定する医療機関で、「地域の中核病院」などを想定しています。

【卒業後の勤務パターン（一例）】

下表により卒業後の勤務パターンの一例を示します。

大学1年生	大学6年生				
在学期間 6年間	県内で 臨床研修 (2年間)	知事の承認を受けて 専門医(後期)研修 (3年以内) [うち2年間は 義務年限に算入(※)]	県の指定する 公的医療機関に 勤務① (2年間)	県の指定する 公的医療機関に 勤務② (3年間)	県の指定する 公的医療機関に 勤務③ (2年間)

※知事が指定する専門医研修の場合は、2年を義務年限に算入できます。

義務年限に算入されない専門医研修の場合は、公的医療機関での勤務が増えます。(③の勤務あり)

このほかに、専門研修の開始時期は、本人の希望により柔軟に対応できます。例えば、県内で2年間研修し、県の指定する公的医療機関に2年間勤務した後に、3年以内の専門研修を経て、県の指定する公的医療機関に5年間勤務することも可能です。

5. 入学者選抜の実施教科・科目等

学部・学科等名等 及び入学定員等 (平成31年度) (志願倍率)	学力検査等の 区分・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名			個別学力検査等			大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等						
		教科	科目名等	教科等	科目名等	2段階選抜	試験の区分	国語	地歴・公民	数学	理科	外国語	小論文	配点 合計
文学部 125人 前期 110 その他 15 (2.4)	前期 2月 25日 ・26日	国 地歴 公民	国 世B, 日B, 地理B } から2 倫・政経 数I・数Aと 数II・数B, 簿, 情報から1 物基, 化基, 生基, 地学基から2 英, 独, 仏, 中, 韓から1 (5教科8科目又は6教科8科目)	国 地歴 数 外	国語総合・現代文B・古典B 数I・数II・数A・数B 英, 独, 仏, 中から1(ただし, 英語に ついては, 「コミュニケーション英語 I」・「コミュニケーション英語II」・ 「コミュニケーション英語III」・「英語 表現I」・「英語表現II」の5科目をあ わせて出題。)	実施 しない	センター試験 個別学力検査 計	200 400 600	200 200 400	200 200 400	100 100	200 400 600	900 1200 2100	推薦 外国人 追加合格
		国 地歴 公民 数 理 外	国 世B, 日B, 地理B } から 倫・政経 物理基礎, 化学基礎, 生物基礎, 地学基礎, 物, 化, 生, 地学から1又は2 (ただし, 基礎を付した 科目×2科目で1とする。) 数I・数Aと 数II・数B, 簿, 情報から1 英, 独, 仏, 中, 韓から1 (5教科7～8科目又は6教科7～8科目)	国 地歴 数 外	国語総合・現代文B・古典B 数I・数II・数A・数B 英, 独, 仏, 中から1(ただし, 英語に ついては, 「コミュニケーション英語 I」・「コミュニケーション英語II」・ 「コミュニケーション英語III」・「英語 表現I」・「英語表現II」の5科目をあ わせて出題。)	実施 しない	センター試験 個別学力検査 計	200 600 800	100 200 100 又は 又は	200 200 800 200 又は	100 又は 200 600 100 又は 200	200 600 800	900 1800 2700	推薦 外国人 追加合格
法学部 150人 前期 105 その他 45 (2.5)	前期 2月 25日 ・26日	国 地歴 公民 数 理 外	国 世B, 日B, 地理B } から2 倫・政経 数I・数Aと 数II・数B, 簿, 情報から1 物基, 化基, 生基, 地学基から2 英, 独, 仏, 中, 韓から1 (5教科8科目又は6教科8科目)	数 外 その他	数I・数II・数A・数B 英, 独, 仏, 中から1(ただし, 英語に ついては, 「コミュニケーション英語 I」・「コミュニケーション英語II」・ 「コミュニケーション英語III」・「英語 表現I」・「英語表現II」の5科目をあ わせて出題。) 小論文(高等学校の地歴, 公民の学習 を前提とする。)	実施 しない	センター試験 個別学力検査 計	200 200 200	200 200 200	200 200 400	100 100	200 200 400	900 600 1500	推薦 外国人 追加合格
		国 地歴 公民 数 理 外	国 世B, 日B, 地理B } から2 倫・政経 数I・数Aと 数II・数B, 簿, 情報から1 物基, 化基, 生基, 地学基から2 英, 独, 仏, 中, 韓から1 (5教科8科目又は6教科8科目)	国 地歴 公民 数 理 外	国語総合・現代文B・古典B 数I・数II・数A・数B 英, 独, 仏, 中から1(ただし, 英語に ついては, 「コミュニケーション英語 I」・「コミュニケーション英語II」・ 「コミュニケーション英語III」・「英語 表現I」・「英語表現II」の5科目をあ わせて出題。)	実施 しない	センター試験 個別学力検査 計	200 500 700	200 500 200	200 500 700	100 100	200 500 700	900 1500 2400	推薦 外国人 追加合格
経済学部 205人 前期 165 その他 40 (2.8)	前期 2月 25日 ・26日	国 地歴 公民 数 理 外	国 世B, 日B, 地理B } から2 倫・政経 数I・数Aと 数II・数B, 簿, 情報から1 物基, 化基, 生基, 地学基から2 英, 独, 仏, 中, 韓から1 (5教科8科目又は6教科8科目)	国 地歴 公民 数 理 外	国語総合・現代文B・古典B 数I・数II・数A・数B 英, 独, 仏, 中から1(ただし, 英語に ついては, 「コミュニケーション英語 I」・「コミュニケーション英語II」・ 「コミュニケーション英語III」・「英語 表現I」・「英語表現II」の5科目をあ わせて出題。)	実施 しない	センター試験 個別学力検査 計	200 500 700	200 500 200	200 500 700	100 100	200 500 700	900 1500 2400	推薦 外国人 追加合格

学部・学科等 及び入学定員等 (平成31年度) 志願倍率)	学力検査等の 区分・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名			個別学力検査等			大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等						その他の 選抜方法 等
		教科	科目名等	教科等	科目名等	2段階 選抜	試験の区分	国語	歴史・ 公民	数学	理科	外国語	小論文	
情報学部 135人 前期 113 その他 22 (3.4)	前期 2月 25日 ・26日	国 世B, 日B, 地理B } から1 倫・政経 数I・数Aと 数II・数B, 簿, 情報から1 物, 化, 生, 地学から2 英, 独, 仏, 中, 韓から1 〔5教科7科目〕	数I・数II・数III・数A・数B 物基・物, 化基・化, 生基・生, 地学 基・地学から1 英, 独, 仏, 中から1 (ただし, 英語 については, 「コミュニケーション英語 I」・「コミュニケーション英語II」・「コ ミュニケーション英語III」・「英語表現 I」・「英語表現II」の5科目をあわせて 出題。)	数I・数II・数III・数A・数B 物基・物, 化基・化, 生基・生, 地学 基・地学から1 英, 独, 仏, 中から1 (ただし, 英語 については, 「コミュニケーション英語 I」・「コミュニケーション英語II」・「コ ミュニケーション英語III」・「英語表現 I」・「英語表現II」の5科目をあわせて 出題。)	センター試験 個別学力検査 計	200 200 2000	200 400 600	100 400 2000	200 300 500	200 300 500	200 400 600	900 1100 2000	推薦 外国人 追加合格	
		国 世B, 日B, 地理B } から2 倫・政経 数I・数Aと 数II・数B, 簿, 情報から1 物基, 化基, 生基, 地学から2 英, 独, 仏, 中, 韓から1 〔5教科8科目又は6教科8科目〕	地歴 数I・数II・数III・数A・数B 英, 独, 仏, 中から1 (ただし, 英語 については, 「コミュニケーション英語 I」・「コミュニケーション英語II」・「コ ミュニケーション英語III」・「英語表現 I」・「英語表現II」の5科目をあわせて 出題。)	地歴 数I・数II・数III・数A・数B 英, 独, 仏, 中から1 (ただし, 英語 については, 「コミュニケーション英語 I」・「コミュニケーション英語II」・「コ ミュニケーション英語III」・「英語表現 I」・「英語表現II」の5科目をあわせて 出題。)	センター試験 個別学力検査 計	200 400 2000	200 700 900	200 400 2000	100 400 2000	200 300 500	200 300 500	200 700 900	900 1100 2000	
コンピュータ 科学科 59人 前期 53 その他 6	前期 2月 25日 ・26日	国 世B, 日B, 地理B } から1 倫・政経 数I・数Aと 数II・数B, 簿, 情報から1 物と 化, 生, 地学から1 英, 独, 仏, 中, 韓から1 〔5教科7科目〕	数I・数II・数III・数A・数B 物基・物, 化基・化, 生基・生, 地学 基・地学から2 (ただし, 物基・物を 含むこと。) 英, 独, 仏, 中から1 (ただし, 英語 については, 「コミュニケーション英語 I」・「コミュニケーション英語II」・「コ ミュニケーション英語III」・「英語表現 I」・「英語表現II」の5科目をあわせて 出題。)	数I・数II・数III・数A・数B 物基・物, 化基・化, 生基・生, 地学 基・地学から2 (ただし, 物基・物を 含むこと。) 英, 独, 仏, 中から1 (ただし, 英語 については, 「コミュニケーション英語 I」・「コミュニケーション英語II」・「コ ミュニケーション英語III」・「英語表現 I」・「英語表現II」の5科目をあわせて 出題。)	センター試験 個別学力検査 計	200 500 2200	200 500 700	100 500 2200	200 500 700	200 300 500	200 300 500	900 1300 2200		
		国 世B, 日B, 地理B } から1 倫・政経 数I・数Aと 数II・数B, 簿, 情報から1 物, 化, 生, 地学から2 (ただし, 物, 化のいずれかを含むこ と。) 英, 独, 仏, 中, 韓から1 〔5教科7科目〕	国語総合・現代文B (古文・漢文を除 く。) 数I・数II・数III・数A・数B 物基・物, 化基・化, 生基・生, 地学 基・地学から2 (ただし, 物基・物, 化 英, 独, 仏, 中から1 (ただし, 英語に ついては, 「コミュニケーション英語 I」・「コミュニケーション英語II」・「コ ミュニケーション英語III」・「英語表現 I」・「英語表現II」の5科目をあ わけて出題。)	国語総合・現代文B (古文・漢文を除 く。) 数I・数II・数III・数A・数B 物基・物, 化基・化, 生基・生, 地学 基・地学から2 (ただし, 物基・物, 化 英, 独, 仏, 中から1 (ただし, 英語に ついては, 「コミュニケーション英語 I」・「コミュニケーション英語II」・「コ ミュニケーション英語III」・「英語表現 I」・「英語表現II」の5科目をあ わけて出題。)	センター試験 個別学力検査 計	200 150 2350	200 300 500	200 500 2350	100 500 2350	200 500 700	200 300 500	200 300 500	900 1450 2350	推薦 外国人 追加合格
理学部 270人 前期 220 その他 50 (2.6)	前期 2月 25日 ・26日	国 世B, 日B, 地理B } から1 倫・政経 数I・数Aと 数II・数B, 簿, 情報から1 物, 化, 生, 地学から2 (ただし, 物, 化のいずれかを含むこ と。) 英, 独, 仏, 中, 韓から1 〔5教科7科目〕	数I・数II・数III・数A・数B 物基・物, 化基・化, 生基・生, 地学 基・地学から2 (ただし, 物基・物を 含むこと。) 英, 独, 仏, 中から1 (ただし, 英語 については, 「コミュニケーション英語 I」・「コミュニケーション英語II」・「コ ミュニケーション英語III」・「英語表現 I」・「英語表現II」の5科目をあ わけて出題。)	数I・数II・数III・数A・数B 物基・物, 化基・化, 生基・生, 地学 基・地学から2 (ただし, 物基・物を 含むこと。) 英, 独, 仏, 中から1 (ただし, 英語 については, 「コミュニケーション英語 I」・「コミュニケーション英語II」・「コ ミュニケーション英語III」・「英語表現 I」・「英語表現II」の5科目をあ わけて出題。)	センター試験 個別学力検査 計	200 500 2350	200 300 500	100 500 2350	200 500 700	200 300 500	200 300 500	900 1450 2350	推薦 外国人 追加合格	

学部・学科等 及び入学定員等 (平成31年度 志願倍率)	学力検査等の 区分・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等							
		教科	科目名等	教科等	科目名等	試験の区分	国語	歴史・公民	数学	理科	外国語	小論文	配点合計
医学部 300人 前期216 後期0 その他84 (2.9)	前期 2月25日 ・26日 ・27日	国 世B, 日B, 地理B } から1 倫・政経 数I・数Aと 数II・数B, 簿, 情報から1 物, 化, 生から2 英, 独, 仏, 中, 韓から1 (5教科7科目)	国語総合・現代文B・古典B 教I・教II・教III・教A・教B 物基・物, 化基・化, 生基・生から2 英, 独, 仏, 中から1(ただし, 英語に ついては, 「コミュニケーション英語II」・ I」・「コミュニケーション英語III」・「英語 表現I」・「英語表現II」の5科目をあ わせて出題。)	国 数 理 外 その他	実施 しない	センター試験 個別学力検査 計	200 150 350	100 100	200 500 700	200 500 700	200 500 700	900 1650 2550	推薦 外国人 追加合格
		後期 3月12日		英文の課題に基づいた面接(口頭試問)	その他	【注】 4	センター試験 個別学力検査 計	200 200	100 100	200 200	200 200	200 200	900 900
看護学専攻 80人 前期45 その他35 放射線技術 科学専攻 40人 前期30 後期10 保健 検査技術 科学専攻 40人 前期25 その他15 理学療法 専攻 20人 前期13 その他7 作業療法 専攻 20人 前期13 その他7	前期 2月25日 ・26日	国 世B, 日B, 地理B } から1 倫・政経 数I・数Aと 数II・数B, 簿, 情報から1 物, 化, 生から2 英, 独, 仏, 中, 韓から1 (5教科7科目)	数I・教II・教III・教A・教B 物基・物, 化基・化, 生基・生から2 英, 独, 仏, 中から1(ただし, 英語に ついては, 「コミュニケーション英語 I」・「コミュニケーション英語II」・ 「コミュニケーション英語III」・「英語 表現I」・「英語表現II」の5科目をあ わせて出題。)	数 理 外	実施 しない	センター試験 個別学力検査 計	200 200	100 100	200 500 700	200 500 700	200 500 700	900 1500 2400	

※ 医学部医学科の後期日程及び推薦入試の募集人員は、暫定的な医学部定員増への延長申請を予定しており、後期日程5名、推薦入試12名となる予定です。確定次第、本学ホームページ等でお知らせします。

学部・学科等名等 及び入学定員等 (平成31年度) (志願倍率)	学力検査等の区分・日程		大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等									
	前期	後期	教科	科目名等	教科等	科目名等	2段階選抜	試験の区分	国語	歴史・公民	数学	理科	外国語	小論文	配点合計	その他の選抜方法等
工学部 680人 前期614 その他66 (2.8)	化学生命工 学科	99人	国 世B, 日B, 地理B } から1 倫・政経	数 理 外	数I・数II・数III・数A・数B 物基・物と化基・化 英, 独, 仏, 中から1 (ただし, 英語に ついては, 「コミュニケーション英語 I」・「コミュニケーション英語II」・ 「コミュニケーション英語III」・「英語 表現I」・「英語表現II」の5科目をあ わせて出題。)	実施 しない	センター試験 個別学力検査	200	100	100	100	100	100		600	推薦
	物理工学科	90 その他9	数I・数Aと 数II・数B, 簿, 情報から1 物と化 英, 独, 仏, 中, 韓から1 (5教科7科目)													
マテリアル 工学科	110人	前期99 その他11														
	電気電子 情報工学科	118人	前期107 その他11													
機械・航空 宇宙工学科	150人	前期135 その他15														
	エネルギー 理工学科	40人	前期36 その他4													
環境土木・ 建築学科	80人	前期72 その他8														

学部・学定員等 (平成31年度 志願倍率)	学力検査等の 区分・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等						その他の 選抜方法 等		
		教科	科目名等	教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴・ 公民	数学	理科	外国語		小論文	配点 合計
農学部 170人 前期136 その他34 (2.4)	前期 2月 25日 ・26日	国 地歴 公民 数 理 外	国 世B、日B、地理B } から1 倫・政経 数Ⅰ・数Aと 数Ⅱ・数B、簿、情報から1 物、化、生、地学から2 英、独、仏、中、韓から1 〔5教科7科目〕	数 理 外	数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B 物基・物、化基・化、生基、生から2 英、独、仏、中から1(ただし、英語に ついては、「コミュニケーション英語 Ⅰ」・「コミュニケーション英語Ⅱ」・ 「コミュニケーション英語Ⅲ」・「英語 表現Ⅰ」・「英語表現Ⅱ」の5科目をあ わせて出題。)	センター試験 個別学力検査 計	200	100	200	200	200	200	900	推薦 外国人 追加合格
							200	100	400	600	600	600	1400	
資源生物科 学科 55人 前期43 その他12														
応用生命科 学科 80人 前期66 その他14														

【注】1. 【大学入試センター試験の利用教科・科目名】欄について

- (1) 教科名は次のとおり略記しています。
国(国語)、地歴(地理歴史)、教(数学)、理(理科)、外(外国語)
- (2) 科目名は次のとおり略記しています。
国(国語)、世B(世界史B)、日B(日本史B)、倫・政経(倫理、政治、経済)、数Ⅰ・数A(数学Ⅰ・数学A)、数Ⅱ・数B(数学Ⅱ・数学B)、簿(簿記・会計)、情報(情報関係基礎)、物基(物理基礎)、化基(化学基礎)、生基(生物基礎)、地学基(地学基礎)、物(物理)、化(化学)、生(生物)、英(英語)、独(ドイツ語)、仏(フランス語)、中(中国語)、韓(韓国語)
- (3) 「簿記・会計」及び「情報関係基礎」を受験できる者は、高等学校又は中等教育学校の普通科・理数科系を除く学科においてこれらの科目を履修した者及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校の高等課程の修了(見込み)者に限りません。
なお、「情報関係基礎」を履修した者には、普通教科「情報」として開講された科目(社会と情報・情報の科学等)を履修した者は該当しません。
- (4) 「外国語」の「英語」を選択した場合には、リスニングテストを全学部で課し、筆記試験(200点満点)とリスニングテスト(50点満点)の合計250点満点(100点満点)に換算します。
なお、受験上の配慮事項によりリスニングテストを免除された者については、筆記試験の成績を換算せずそのまま用います。(工学部は100点満点に換算します。)
- (5) 指定した教科・科目数を超えた場合には、第1解答科目の成績を用います。
なお、第1解答科目が指定した教科・科目でない場合には、出願することができません。
- (6) 理科における基礎を付した科目を2科目とも基礎を付していない4科目のうちから1科目を選択した場合、基礎を付した2科目の成績を用います。(ただし、教育学部については、(7)を参照のこと)
なお、基礎を付した科目を2科目とも基礎を付せずに、基礎を付していない1科目(2科目選択した場合は、第1解答科目)の成績を用います。(ただし、教育学部については、(7)を参照のこと)
- (7) 理科は同一名称を付した科目の組み合わせ「物理基礎、化学基礎」とし、物理・生物・化学・生物基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎を示します。
理科における基礎を付していない科目とは、物理、化学、生物、地学を示します。
(8) 教育学部における地歴・公民と理科の選択については、以下のとおりとします。ただし、理科において基礎を付した科目×2科目で1(科目)として扱います。
理科は同一名称を付した科目の組み合わせ「物理基礎、化学基礎」と「物理」などはできません。この組み合わせで受験した場合は、基礎を付した科目のうちから高得点の1科目のみを有効とします。
地歴・公民及び理科をそれぞれ2科目受験し、いずれも有効な場合は、地歴・公民の第1解答科目に加えて、以下に示す2科目の計3科目を採用します。
・理科における基礎を付した科目を受験した場合は、理科の2科目と、地歴・公民の第2解答科目のうちから高得点の2科目を採用します。
・理科において基礎を付した科目を受験しなかった場合は、理科の第1解答科目に加えて、理科と地歴・公民の第2解答科目のうちから高得点の1科目を採用します。

【注】 2. 【個別学力検査等の教科等及び科目名等】欄について

(1) 教科名は次のとおり略記しています。

国 (国語)、地歴 (地理歴史)、数 (数学)、理 (理科)、外 (外国語)

(2) 科目名は次のとおり略記しています。

世B (世界史B)、日B (日本史B)、数I (数学I)、数II (数学II)、数III (数学III)、数A (数学A)、数B (数学B)、物基 (物理基礎)、化基 (化学基礎)、生基 (生物基礎)、地学基 (地学基礎)、物 (物理)、化 (化学)、生 (生物)、英 (英語)、独 (ドイツ語)、仏 (フランス語)、中 (中国語)

(3) 「数学」

・数学I、数学II、数学III、数学A は全範囲から出題し、数学B は「数列」、「ベクトル」から出題します。

・数学の試験については、試験室において公式集を配付します。

(4) 「理科」

・「物理基礎・物理」は物理基礎、物理の全範囲から出題します。

・「化学基礎・化学」は化学基礎、化学の全範囲から出題します。

・「生物基礎・生物」は生物基礎、生物の全範囲から出題します。

・「地学基礎・地学」は地学基礎、地学の全範囲から出題します。

【注】 3. 【大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等】欄について

選択教科を表します。

【注】 4. 【2段階選抜】欄について

医学部医学科 (後期日程) の2段階選抜については、大学入試センター試験の成績が900点満点中720点以上の者を第1段階選抜の合格者とします。

※ 医学部医学科の後期日程及び推薦入試の募集人員は、暫定的な医学部定員増への延長申請を予定しており、後期日程5名、推薦入試12名となる予定です。確定次第、本学ホームページ等でお知らせします。

6. 入学者選抜方法等（その他の入試）

選抜方法等 学部・学科名		アドミッション・オフィス入試	推薦入試							募集人員	専門高校・総合学科卒業生入試	帰国子女入試・社会人入試			備考
			個別学力検査を免除し、大学入試センター試験を課す	個別学力検査及び大学入試センター試験を免除する	実技検査等				その他			帰国子女	中国引揚者等子女	社会人	
					面接を行う	小論文を課す	実技検査を課す	外国語におけるリスニングテストを課す							
文学部	×	×	○	○	○	×	×	×	15名	×	×	×	×		
教育学部	×	○	×	○	○	×	×	×	10名	×	×	×	×		
法学部	×	○	×	○	×	×	×	×	45名	×	×	×	×		
経済学部	×	○	×	○	×	×	×	×	40名	×	×	×	×		
情報学部	×	○	×	○	×	×	×	×	22名 (26頁参照)	×	×	×	×		
理学部	×	○	×	○	×	×	×	×	50名	×	×	×	×		
医学部	医学科	×	○	×	○	×	×	×	10名 【注】2	×	×	×	×		
	保健学科	×	○	×	○	×	×	×	74名 (29頁参照)	×	×	×	×		
工学部	×	○	×	○	×	×	×	×	66名 (30頁参照)	×	×	×	×		
農学部	×	○	×	○	×	×	×	×	34名 (31頁参照)	×	×	×	×		

【注】 1. 各欄のうち○印は該当する場合であり、×印は該当しない場合です。

【注】 2. 医学部医学科の推薦入試の募集人員は、暫定的な医学部定員増への延長申請を予定しており、12名となる予定です。確定次第、本学ホームページ等でお知らせします。

7. 大学入試センター試験を課す推薦入試

実施学部	教育学部																
募集人員	10名																
出願資格・要件	<p>次の各号のいずれかに該当する者で、当学部の「アドミッション・ポリシー」にあるように、広い視野と深い洞察力、考察力、論理的思考力、表現力、実践力を有し、人間の成長発達と教育をめぐる課題に深い関心をいだき、教育学と心理学に対する勉学の熱意と意欲を持ち、学業・人物ともに優れ、学校長等から責任ある推薦を受けた者、かつ合格した場合には必ず入学することを確約できる者。さらに「令和2年度大学入試センター試験」の教科・科目のうち当学部が指定した教科・科目（下記、選抜方法等参照）を受験している必要があります。</p> <p>(1) 高等学校又は中等教育学校を令和2年3月卒業見込みの者</p> <p>(2) 学校教育法施行規則第93条第3項の規定に基づき令和元年度中に高等学校又は中等教育学校を卒業又は卒業見込みの者</p> <p>(3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成31年4月から令和2年3月までに修了又は修了見込みの者</p> <p>なお、各高等学校等から推薦できる人数に制限はありません。</p>																
主な提出書類	<p>A 提出を求めるもの（必須） 志願理由書、推薦書及び調査書</p> <p>B 任意で提出を求めるもの 次の①～⑦に該当するものがある場合は書類を提出してください。</p> <p>① 教育学部のアドミッション・ポリシーに合致する活動、あるいは達成事項等で特筆すべきものについて志願者がまとめた書類</p> <p>② ボランティア活動等社会貢献活動の実績を証明する書類</p> <p>③ スーパーグローバルハイスクール（SGH）、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）に指定されている学校において、SGHもしくはSSHに関連した特筆すべき活動や得たことを志願者がまとめた書類</p> <p>④ グローバルサイエンスキャンパス（GSC）における活動等について志願者がまとめた書類</p> <p>⑤ 外国語に関する高い語学力を証明する書類（TOEFL、英検、IELTS、TestDaf、DALF、HSK等）</p> <p>⑥ 海外研修又は留学の事実を証明する書類</p> <p>⑦ 国際バカロレアのスコア</p>																
選抜方法等	<p>選抜は、第1次選考と第2次選考により行います。</p> <p>第1次選考は、提出された志願理由書、推薦書、調査書及び任意提出書類並びに大学入試センター試験の成績により総合的に判断して行い、第1次選考の合格者（第2次選考の受験有資格者）を決定します。</p> <p>第2次選考は、第1次選考合格者に対し、小論文及び面接を実施して、合格者を決定します。</p> <p>大学入試センター試験の利用教科・科目名</p> <table style="border: none;"> <tr> <td style="padding-right: 10px;">国</td> <td style="padding-right: 10px;">：国</td> <td rowspan="3" style="font-size: 3em; vertical-align: middle;">}</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: middle;">から1又は2</td> </tr> <tr> <td>地歴</td> <td>：世B、日B、地理B</td> </tr> <tr> <td>公民</td> <td>：倫・政経</td> </tr> <tr> <td>理</td> <td>：物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎、 物、化、生、地学から1又は2 (ただし、基礎を付した科目×2科目で1とする。)</td> <td rowspan="3" style="font-size: 3em; vertical-align: middle;">}</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: middle;">から3</td> </tr> <tr> <td>数</td> <td>：数Ⅰ・数Aと 数Ⅱ・数B、簿、情報から1</td> </tr> <tr> <td>外</td> <td>：英、独、仏、中、韓から1 〔5教科7～8科目又は6教科7～8科目〕 ※20頁【注】1. を参照してください。</td> </tr> </table>	国	：国	}	から1又は2	地歴	：世B、日B、地理B	公民	：倫・政経	理	：物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎、 物、化、生、地学から1又は2 (ただし、基礎を付した科目×2科目で1とする。)	}	から3	数	：数Ⅰ・数Aと 数Ⅱ・数B、簿、情報から1	外	：英、独、仏、中、韓から1 〔5教科7～8科目又は6教科7～8科目〕 ※20頁【注】1. を参照してください。
国	：国	}	から1又は2														
地歴	：世B、日B、地理B																
公民	：倫・政経																
理	：物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎、 物、化、生、地学から1又は2 (ただし、基礎を付した科目×2科目で1とする。)	}	から3														
数	：数Ⅰ・数Aと 数Ⅱ・数B、簿、情報から1																
外	：英、独、仏、中、韓から1 〔5教科7～8科目又は6教科7～8科目〕 ※20頁【注】1. を参照してください。																
出願期間	令和2年1月21日（火）から令和2年1月24日（金）																
選抜期日	令和2年2月10日（月）小論文及び面接																
合格者発表日	令和2年2月12日（水）																
その他	<p>(1) 一般入試への出願 推薦入試で不合格となった場合に備えて、別途国公立大学一般入試に出願することができます。なお、本学を受験する場合は、別途出願手続を行ってください。</p> <p>(2) 募集要項について インターネット出願の導入により、冊子体での配付は行いません。 大学入試センター試験を課す推薦入試の募集要項は、11月下旬に本学ホームページに掲載する予定です。</p>																

実施学部	法 学 部
募集人員	45名
出願資格・要件	<p>次の各号のいずれかに該当する者で、当学部に対する明確な志向と勉学の熱意を持ち、学習成績・人物ともに特に優れ、学校長等から責任ある推薦を受け、合格した場合には必ず入学することを確約できる者。さらに「令和2年度大学入試センター試験」の教科・科目のうち本学部が指定した教科・科目（下記、選抜方法等参照）を受験している必要があります。</p> <p>(1) 高等学校又は中等教育学校を令和2年3月卒業見込みの者</p> <p>(2) 学校教育法施行規則第93条第3項の規定に基づき令和元年度中に高等学校又は中等教育学校を卒業又は卒業見込みの者</p> <p>(3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成31年4月から令和2年3月までに修了又は修了見込みの者</p>
主な提出書類	<p>A 提出を求めるもの（必須） 志願理由書、推薦書及び調査書</p> <p>B 任意で提出を求めるもの 次の①～⑤に該当するものがある場合は書類を提出してください。</p> <p>① 英語力を示す各種試験のスコア（TOEFL・英検・IELTS等）</p> <p>② 数学オリンピック・科学オリンピック等での実績</p> <p>③ 国際バカロレアのスコア</p> <p>④ スーパーグローバルハイスクール（SGH）・スーパーサイエンスハイスクール（SSH）における活動</p> <p>⑤ その他、各種活動状況、表彰、資格に関する証明書等</p>
選抜方法等	<p>選抜は、第1次選考と第2次選考により行います。</p> <p>第1次選考は、提出された志願理由書、推薦書、調査書及び任意で提出された証明書等並びに大学入試センター試験の成績により第1次選考合格者（面接受験者）を決定します。</p> <p>第2次選考は、第1次選考合格者に対し、面接を実施し、合格者を決定します。</p> <p>大学入試センター試験の利用教科・科目名</p> <p>国：国 地歴：世B、日B、地理B } から2 公民：倫・政経 数：数I・数Aと 数II・数B、簿、情報から1 理：物基、化基、生基、地学基から2 外：英、独、仏、中、韓から1 〔5教科8科目又は6教科8科目〕 ※20頁【注】1. を参照してください。</p>
出願期間	令和2年1月21日（火）から令和2年1月24日（金）
選抜期日	令和2年2月10日（月）面接
合格者発表日	令和2年2年12日（水）
その他	<p>(1) 一般入試への出願 推薦入試で不合格となった場合に備えて、別途国公立大学一般入試に出願することができます。 なお、本学を受験する場合は、別途出願手続を行ってください。</p> <p>(2) 募集要項について インターネット出願の導入により、冊子体での配付は行いません。 大学入試センター試験を課す推薦入試の募集要項は、11月下旬に本学ホームページに掲載する予定です。</p>

実施学部	経済学部
募集人員	40名
出願資格・要件	<p>次の各号のいずれかに該当する者で、経済学に対する強い勉強意欲を抱いており、かつ以下のような特色すなわち、①個性的、意欲的で指導力がある、②勉学に特に秀でている、③課外活動等で特に成果をあげている、を一つ以上持ち、学業成績・人物ともに優れ、学校長等から責任ある推薦を受け、合格した場合には必ず入学することを確約できる者。さらに「令和2年度大学入試センター試験」の教科・科目のうち本学部が指定した教科・科目（下記、選抜方法等参照）を受験している必要があります。</p> <p>(1) 高等学校又は中等教育学校を令和2年3月卒業見込みの者</p> <p>(2) 学校教育法施行規則第93条第3項の規定に基づき令和元年度中に高等学校又は中等教育学校を卒業又は卒業見込みの者</p> <p>(3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成31年4月から令和2年3月までに修了又は修了見込みの者</p> <p>なお、各高等学校等から推薦できる人数は、2名以内とします。</p>
主な提出書類	<p>A 提出を求めるもの（必須） 志願理由書、推薦書及び調査書</p> <p>B 任意で提出を求めるもの 次の①～④に該当する場合は書類を提出してください。</p> <p>① 英語力を示す各種試験のスコア（TOEFL、IELTS、TOEIC、英検、GTEC等）</p> <p>② 国際バカロレアのスコア</p> <p>③ スーパーグローバルハイスクール（SGH）、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）、グローバルサイエンスキャンパス（GSC）における活動を証明する書類</p> <p>④ その他各種活動状況、表彰、資格を証明する書類</p>
選抜方法等	<p>選抜は、第1次選考と第2次選考により行います。</p> <p>第1次選考は、提出された志願理由書、推薦書、調査書及び任意で提出された書類等並びに大学入試センター試験の成績により約60名の第1次選考合格者（面接受験者）を決定します。</p> <p>第2次選考は、第1次選考合格者に対し、面接を実施し、合格者を決定します。</p> <p>大学入試センター試験の利用教科・科目名</p> <p>国：国 地歴：世B、日B、地理B } から2 公民：倫・政経 数：数I・数Aと 数II・数B、簿、情報から1 理：物基、化基、生基、地学基から2 外：英、独、仏、中、韓から1 〔5教科8科目又は6教科8科目〕 ※20頁【注】1. を参照してください。</p>
出願期間	令和2年1月21日（火）から令和2年1月24日（金）
選抜期日	令和2年2月10日（月）面接
合格者発表日	令和2年2月12日（水）
その他	<p>(1) 一般入試への出願 推薦入試で不合格となった場合に備えて、別途国公立大学一般入試に出願することができます。なお、本学を受験する場合は、別途出願手続を行ってください。</p> <p>(2) 募集要項について インターネット出願の導入により、冊子体での配付は行いません。 大学入試センター試験を課す推薦入試の募集要項は、11月下旬に本学ホームページに掲載する予定です。</p>

実施学部	情報学部		
募集人員	自然情報学科 8名 人間・社会情報学科 8名 コンピュータ科学科 6名 計 22名		
出願資格・要件	<p>次の各号のいずれかに該当する者で、当学部に対する明確な志向と勉学の熱意を持ち、学習成績・人物ともに優れ、特に情報を活用して人類の課題へ挑む意欲があり、学校長等から責任ある推薦を受け、合格した場合には必ず入学することを確約できる者。さらに「令和2年度大学入試センター試験」の教科・科目のうち本学部が指定した教科・科目（下記、選抜方法等参照）を受験している必要があります。</p> <p>(1) 高等学校又は中等教育学校を令和2年3月卒業見込みの者</p> <p>(2) 学校教育法施行規則第93条第3項の規定に基づき令和元年度中に高等学校又は中等教育学校を卒業又は卒業見込みの者</p> <p>(3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成31年4月から令和2年3月までに修了又は修了見込みの者</p> <p>なお、各高等学校等から推薦できる人数は、学科ごとに1名とします。</p>		
主な提出書類	<p>A 提出を求めるもの（必須） 志願理由書、推薦書及び調査書</p> <p>B 任意で提出を求めるもの（第2次選考で参考にさせて頂くことがあります。） 次の①～③に該当するものがある場合は書類を提出してください。</p> <p>① 外国語の能力 英語やその他の外国語の能力を示すスコア（TOEFL・IELTS・TOEIC・英検・独検等）</p> <p>② 国際標準の入学資格 国際バカロレアのスコア</p> <p>③ その他 各種検定の認定証 国際規模、全国規模、地方規模のコンテストにおける入賞を証明する書類 社会的活動での活躍を証明する書類</p>		
選抜方法等	<p>選抜は、第1次選考と第2次選考により行います。</p> <p>第1次選考は、提出された志願理由書、推薦書及び調査書並びに大学入試センター試験の成績により第1次選考合格者（面接受験者）を決定します。</p> <p>第2次選考は、第1次選考合格者に対し、面接を実施し、合格者を決定します。</p> <p>大学入試センター試験の利用教科・科目名</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>(自然情報学科)</p> <p>国：国 地歴：世B、日B、地理B } から1 公民：倫・政経 数：数Ⅰ・数Aと 数Ⅱ・数B、簿、情報から1 理：物、化、生、地学から2 外：英、独、仏、中、韓から1 [5教科7科目]</p> <p>(人間・社会情報学科)</p> <p>国：国 地歴：世B、日B、地理B } から2 公民：倫・政経 数：数Ⅰ・数Aと 数Ⅱ・数B、簿、情報から1 理：物基、化基、生基、地学基から2 外：英、独、仏、中、韓から1 [5教科8科目又は6教科8科目]</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>(コンピュータ科学科)</p> <p>国：国 地歴：世B、日B、地理B } から1 公民：倫・政経 数：数Ⅰ・数Aと 数Ⅱ・数B、簿、情報から1 理：物と 化、生、地学から1 外：英、独、仏、中、韓から1 [5教科7科目] ※20頁【注】1. を参照してください。</p> </td> </tr> </table>	<p>(自然情報学科)</p> <p>国：国 地歴：世B、日B、地理B } から1 公民：倫・政経 数：数Ⅰ・数Aと 数Ⅱ・数B、簿、情報から1 理：物、化、生、地学から2 外：英、独、仏、中、韓から1 [5教科7科目]</p> <p>(人間・社会情報学科)</p> <p>国：国 地歴：世B、日B、地理B } から2 公民：倫・政経 数：数Ⅰ・数Aと 数Ⅱ・数B、簿、情報から1 理：物基、化基、生基、地学基から2 外：英、独、仏、中、韓から1 [5教科8科目又は6教科8科目]</p>	<p>(コンピュータ科学科)</p> <p>国：国 地歴：世B、日B、地理B } から1 公民：倫・政経 数：数Ⅰ・数Aと 数Ⅱ・数B、簿、情報から1 理：物と 化、生、地学から1 外：英、独、仏、中、韓から1 [5教科7科目] ※20頁【注】1. を参照してください。</p>
<p>(自然情報学科)</p> <p>国：国 地歴：世B、日B、地理B } から1 公民：倫・政経 数：数Ⅰ・数Aと 数Ⅱ・数B、簿、情報から1 理：物、化、生、地学から2 外：英、独、仏、中、韓から1 [5教科7科目]</p> <p>(人間・社会情報学科)</p> <p>国：国 地歴：世B、日B、地理B } から2 公民：倫・政経 数：数Ⅰ・数Aと 数Ⅱ・数B、簿、情報から1 理：物基、化基、生基、地学基から2 外：英、独、仏、中、韓から1 [5教科8科目又は6教科8科目]</p>	<p>(コンピュータ科学科)</p> <p>国：国 地歴：世B、日B、地理B } から1 公民：倫・政経 数：数Ⅰ・数Aと 数Ⅱ・数B、簿、情報から1 理：物と 化、生、地学から1 外：英、独、仏、中、韓から1 [5教科7科目] ※20頁【注】1. を参照してください。</p>		
出願期間	令和2年1月21日（火）から令和2年1月24日（金）		
選抜期日	令和2年2月9日（日）面接		
合格者発表日	令和2年2月12日（水）		
その他	<p>(1) 一般入試への出願 推薦入試で不合格となった場合に備えて、別途国公立大学一般入試に出願することができます。 なお、本学を受験する場合は、別途出願手続を行ってください。</p> <p>(2) 募集要項について インターネット出願の導入により、冊子体での配付は行いません。 大学入試センター試験を課す推薦入試の募集要項は、11月下旬に本学ホームページに掲載する予定です。</p>		

実施学部	理 学 部
募集人員	50名
出願資格・要件	<p>次の各号のいずれかに該当する者で、当学部の「アドミッション・ポリシー」にあるように、数学や自然科学に強い興味を持ち、基礎となる高等学校の数学や理科の授業内容を十分に理解し、自然界を貫く真理の探究に挑むチャレンジ精神と知的好奇心に満ちあふれ、豊かな創造力を持つことを要件に、学校長等から責任ある推薦を受け、合格した場合には必ず入学することを確約できる者。さらに「令和2年度大学入試センター試験」の教科・科目のうち本学部が指定した教科・科目（下記、選抜方法等参照）を受験している必要があります。</p> <p>(1) 高等学校又は中等教育学校を令和2年3月卒業見込みの者</p> <p>(2) 学校教育法施行規則第93条第3項の規定に基づき令和元年度中に高等学校又は中等教育学校を卒業又は卒業見込みの者</p> <p>(3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成31年4月から令和2年3月までに修了又は修了見込みの者</p>
主な提出書類	<p>A 提出を求めるもの（必須） 志願理由書、推薦書及び調査書</p> <p>B 任意で提出を求めるもの 次の①～③に該当するものがある場合は書類を提出してください。</p> <p>① 優れた英語力を示す各種試験（TOEFL・IELTS・TOEIC・英検・GTEC等）の成績を証明する書類</p> <p>② 国際バカロレアのスコアを証明する書類</p> <p>③ 高等学校等で行った課外活動等の実績（スーパーグローバルハイスクール（SGH）・スーパーサイエンスハイスクール（SSH）における活動状況、グローバルサイエンスキャンパス（GSC）における活動状況、数学オリンピック・物理オリンピック・化学オリンピック・生物学オリンピック・地学オリンピックへの参加状況、全国規模・地方規模の科学分野のコンテスト等への参加状況等）を証明する書類</p>
選抜方法等	<p>選抜は、次により行います。</p> <p>(1) 書類選考は、提出された志願理由書、推薦書、調査書及び任意提出書類並びに大学入試センター試験の成績により総合的に選考し、約25名の合格者（面接選考を免除された合格者）を決定します。また、書類選考の結果、合格者とならなかった者のうちから面接選考の受験有資格者を決定します。</p> <p>(2) 面接選考では上記(1)の書類選考で面接選考の受験有資格者となった者に対し口頭試問による面接を実施し、面接及び提出された志願理由書、推薦書及び調査書並びに大学入試センター試験の成績により総合的に選考して、約25名の合格者を決定します。</p> <p>大学入試センター試験の利用教科・科目名</p> <p>国：国 地歴：世B、日B、地理B } から1 公民：倫・政経 } 数：数I・数Aと 数II・数B、簿、情報から1 理：物、化、生、地学から2（ただし、物、化のいずれかを含むこと。） 外：英、独、仏、中、韓から1 〔5教科7科目〕 ※20頁【注】1. を参照してください。</p>
出願期間	令和2年1月21日（火）から令和2年1月24日（金）
選抜期日	令和2年2月10日（月）面接（面接選考の受験有資格者のみ）
合格者発表日	令和2年2月7日（金）（書類選考） 令和2年2月12日（水）（面接選考）
その他	<p>(1) 一般入試への出願 推薦入試で不合格となった場合に備えて、別途国公立大学一般入試に出願することができます。なお、本学を受験する場合は、別途出願手続を行ってください。</p> <p>(2) 募集要項について インターネット出願の導入により、冊子体での配付は行いません。 大学入試センター試験を課す推薦入試の募集要項は、11月下旬に本学ホームページに掲載する予定です。</p>

実施学部	医学部 医学科
募集人員	10名【注】
出願資格・要件	<p>次の各号のいずれかに該当する者で、特に医学研究者への志向性を持つ人材であり、調査書の学習成績概評がAに属し、学習成績・人物ともに特に優秀で、学校長等から④として責任ある推薦を受け、合格した場合には必ず入学することを確約できる者。さらに「令和2年度大学入試センター試験」の教科・科目のうち本学部が指定した教科・科目（下記、選抜方法等参照）を受験している必要があります。</p> <p>(1) 高等学校又は中等教育学校を令和2年3月卒業見込みの者</p> <p>(2) 学校教育法施行規則第93条第3項の規定に基づき令和元年度中に高等学校又は中等教育学校を卒業又は卒業見込みの者</p> <p>(3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成31年4月から令和2年3月までに修了又は修了見込みの者</p> <p>なお、各高等学校等から推薦できる人数は1名とします。</p> <p>※入学後のカリキュラムの詳細については、本学医学部ホームページ (https://www.med.nagoya-u.ac.jp/)→名古屋大学大学院医学系研究科・医学部医学科→入学案内→推薦入試→推薦入学後のカリキュラムを参照してください。</p>
主な提出書類	<p>A 提出を求めるもの（必須） 志願理由書、推薦書及び調査書</p> <p>B 任意で提出を求めるもの 次の①～⑤に該当するものがある場合は書類を提出してください。提出書類はおもに面接の際の参考資料として使用します。</p> <p>① 英語力を示す各種試験のスコア（TOEFL, IELTS, 英検等）</p> <p>② 国際バカロレアのスコア</p> <p>③ スーパーグローバルハイスクール（SGH）・スーパーサイエンスハイスクール（SSH）における活動状況</p> <p>④ グローバルサイエンスキャンパス（GSC）における活動状況</p> <p>⑤ 科学研究に関する活動を積極的かつ継続的に行い、その成果や活動を客観的に示すことができるもの（例えば生物学オリンピック出場歴等）</p>
選抜方法等	<p>選抜は、第1次選考と第2次選考により行います。</p> <p>第1次選考は、提出された志願理由書、推薦書及び調査書並びに大学入試センター試験の成績により第1次選考合格者（面接受験者）を決定します。</p> <p>第2次選考は、第1次選考合格者に対し、和文と英文の課題を設定し、プレゼンテーションと口頭試問による面接を実施し、合格者を決定します。</p> <p>大学入試センター試験の利用教科・科目名</p> <p>国：国 地歴：世B、日B、地理B } から1 公民：倫・政経 数：数I・数Aと 数II・数B、簿、情報から1 理：物、化、生から2 外：英、独、仏、中、韓から1 〔5教科7科目〕</p> <p>※20頁【注】1. を参照してください。</p>
出願期間	令和2年1月21日（火）から令和2年1月24日（金）
選抜期日	令和2年2月10日（月）面接
合格者発表日	令和2年2月12日（水）
その他	<p>(1) 一般入試への出願 推薦入試で不合格となった場合に備えて、別途国公立大学一般入試に出願することができます。なお、本学を受験する場合は、別途出願手続を行ってください。</p> <p>(2) 募集要項について インターネット出願の導入により、冊子体での配付は行いません。 大学入試センター試験を課す推薦入試の募集要項は、11月下旬に本学ホームページに掲載する予定です。</p> <p>(3) 研究医（医師免許を持つ研究者）奨学金制度について 研究医を目指し、大学院（MD・PhDコースを含む）へ進学する者への経済的支援を図るため、国の政策に基づいた奨学金制度を設けております。「MD・PhDコース」の詳細については、本学医学部ホームページ (https://www.med.nagoya-u.ac.jp/)→名古屋大学大学院医学系研究科・医学部医学科→大学院教育→博士課程→MD・PhDコース、博士課程スカラーシッププログラムを参照してください。</p>

【注】医学部医学科の推薦入試の募集人員は、暫定的な医学部定員増への延長申請を予定しており、12名となる予定です。確定次第、本学ホームページ等でお知らせします。

実施学部	医学部保健学科
募集人員	看護学専攻 35名 放射線技術科学専攻 10名 検査技術科学専攻 15名 理学療法学専攻 7名 作業療法学専攻 7名 計 74名
出願資格・要件	次の各号のいずれかに該当する者で、当学部・学科に対する明確な志向と勉学の意欲を持ち、学業成績・人物ともに特に優れ、学校長等から責任ある推薦を受け、合格した場合には必ず入学することを確約できる者。さらに「令和2年度大学入試センター試験」の教科・科目のうち本学部が指定した教科・科目（下記、選抜方法等参照）を受験している必要があります。 (1) 高等学校又は中等教育学校を令和2年3月卒業見込みの者 (2) 学校教育法施行規則第93条第3項の規定に基づき令和元年度中に高等学校又は中等教育学校を卒業又は卒業見込みの者 (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成31年4月から令和2年3月までに修了又は修了見込みの者 なお、各高等学校等から推薦できる人数は、専攻ごとに2名以内とします。
主な提出書類	A 提出を求めるもの（必須） 志願理由書、推薦書及び調査書 ----- B 任意で提出を求めるもの 次の①、②に該当するものがある場合は書類を提出してください。提出書類は、主に面接の際の参考資料として使用します。 ①英語力を示す次の試験のスコア（TOEFL, IELTS, TOEIC, 英検, GTEC） ②グローバルサイエンスキャンパス（GSC）における活動を示す書類
選抜方法等	選抜は、第1次選考と第2次選考により行います。 第1次選考は、提出された志願理由書、推薦書及び調査書並びに大学入試センター試験の成績により第1次選考合格者（面接受験者）を決定します。 第2次選考は、第1次選考合格者に対し、口頭試問による面接を実施し、面接及び提出された志願理由書、推薦書及び調査書並びに大学入試センター試験の成績により、合格者を決定します。 大学入試センター試験の利用教科・科目名 国：国 地歴：世B, 日B, 地理B } から1 公民：倫・政経 数：数I・数Aと 数II・数B, 簿, 情報から1 理：物, 化, 生から2 外：英, 独, 仏, 中, 韓から1 〔5教科7科目〕 ※20頁【注】1. を参照してください。
出願期間	令和2年1月21日（火）から令和2年1月24日（金）
選抜期日	令和2年2月10日（月）面接
合格者発表日	令和2年2月12日（水）
その他	(1) 一般入試への出願 推薦入試で不合格となった場合に備えて、別途国公立大学一般入試に出願することができます。 なお、本学を受験する場合は、別途出願手続を行ってください。 (2) 募集要項について インターネット出願の導入により、冊子体での配付は行いません。 大学入試センター試験を課す推薦入試の募集要項は、11月下旬に本学ホームページに掲載する予定です。

実施学部	工 学 部	
募集人員	化学生命工学科 9名 物理工学科 8名 マテリアル工学科 11名 電気電子情報工学科 11名	機械・航空宇宙工学科 15名 エネルギー理工学科 4名 環境土木・建築学科 8名 計 66名
出願資格・要件	<p>次の各号のいずれかに該当する者で、工学に対する強い勉学意欲と将来を見据えた明確な勉学目的を持ち、学習成績、人物ともに優れ、学校長等から責任ある推薦を受け、合格した場合には必ず入学することを確約できる者。さらに「令和2年度大学入試センター試験」の教科・科目のうち本学部が指定した教科・科目（下記、選抜方法等参照）を受験している必要があります。</p> <p>(1) 高等学校又は中等教育学校を令和2年3月卒業見込みの者</p> <p>(2) 学校教育法施行規則第93条第3項の規定に基づき令和元年度中に高等学校又は中等教育学校を卒業又は卒業見込みの者</p> <p>(3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成31年4月から令和2年3月までに修了又は修了見込みの者</p> <p>なお、各高等学校等から推薦できる人数は、各学科2名以内とします。</p>	
主な提出書類	<p>A 提出を求めるもの（必須） 志願理由書、推薦書及び調査書</p> <p>B 任意で提出を求めるもの 次の①～⑥に該当するものがある場合は書類を提出してください。提出書類は第1次選考もしくは第2次選考の際の参考資料として使用することがあります。</p> <p>① 英語検定試験（TOEFL・IELTS・TOEIC・GTEC・英検等）の成績を証明する書類</p> <p>② 国際バカロレアのスコアを証明する書類</p> <p>③ スーパーグローバルハイスクール（SGH）・スーパーサイエンスハイスクール（SSH）・グローバルサイエンスキャンパス（GSC）における活動状況を証明する書類</p> <p>④ 数学オリンピック・科学オリンピックへの参加状況を証明する書類</p> <p>⑤ 全国規模・地方規模の科学分野のコンテスト等への参加状況を証明する書類</p> <p>⑥ その他、各種活動状況、表彰、資格を証明する書類</p>	
選抜方法等	<p>選抜は、第1次選考と第2次選考により行います。</p> <p>第1次選考は、提出された志願理由書、推薦書及び調査書並びに大学入試センター試験の成績により第1次選考合格者（面接受験者）を決定します。</p> <p>第2次選考は、第1次選考合格者に対し、口頭試問による面接を実施し、合格者を決定します。</p> <p>※環境土木・建築学科で建築学プログラムを希望する場合は、口頭試問にスケッチも含まれます。</p> <p>大学入試センター試験の利用教科・科目名</p> <p>国：国 地歴：世B、日B、地理B } から1 公民：倫・政経 数：数Ⅰ・数Aと 数Ⅱ・数B、簿、情報から1 理：物と化 外：英、独、仏、中、韓から1 〔5教科7科目〕 ※20頁【注】1. を参照してください。</p>	
出願期間	令和2年1月21日（火）から令和2年1月24日（金）	
選抜期日	令和2年2月10日（月）面接	
合格者発表日	令和2年2月12日（水）	
その他	<p>(1) 一般入試への出願 推薦入試で不合格となった場合に備えて、別途国公立大学一般入試に出願することができます。 なお、本学を受験する場合は、別途出願手続を行ってください。</p> <p>(2) 募集要項について インターネット出願の導入により、冊子体での配付は行いません。 大学入試センター試験を課す推薦入試の募集要項は、11月下旬に本学ホームページに掲載する予定です。</p>	

実施学部	農 学 部
募集人員	生物環境科学科 8名 資源生物科学科 12名 応用生命科学科 14名 計 34名
出願資格・要件	次の各号のいずれかに該当する者で、農学に対する強い勉学意識と将来を見据えた明確な勉学目的があり、学習成績・人物ともに優れ、学校長等から責任ある推薦を受け、合格した場合には必ず入学することを確約できる者。さらに「令和2年度大学入試センター試験」の教科・科目のうち本学部が指定した教科・科目（下記、選抜方法等参照）を受験している必要があります。 (1) 高等学校又は中等教育学校を令和2年3月卒業見込みの者 (2) 学校教育法施行規則第93条第3項の規定に基づき令和元年度中に高等学校又は中等教育学校を卒業又は卒業見込みの者 (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成31年4月から令和2年3月までに修了又は修了見込みの者
主な提出書類	A 提出を求めるもの（必須） 志願理由書、推薦書及び調査書 ----- B 任意で提出を求めるもの 次の①～⑤に該当するものがある場合は書類を提出してください。 ① 英語力を示す各種試験のスコア（TOEFL、IELTS、TOEIC、英検、GTEC等）を証明する書類 ② 国際バカロレアのスコアを証明する書類 ③ スーパーグローバルハイスクール（SGH）、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）、グローバルサイエンスキャンパス（GSC）等における活動状況を証明する書類 ④ 数学オリンピック、科学オリンピック、全国規模・地方規模の科学分野コンテスト等への参加状況を証明する書類 ⑤ その他科学分野での活動状況を証明する書類
選抜方法等	選抜は、第1次選考と第2次選考により行います。 第1次選考は、提出された志願理由書、推薦書、調査書及び任意提出書類並びに大学入試センター試験の成績により第1次選考合格者（面接受験者）を決定します。 第2次選考は、第1次選考合格者に対し、学科ごとに口頭試問による面接を実施し、合格者を決定します。 大学入試センター試験の利用教科・科目名 国：国 地歴：世B、日B、地理B } から1 公民：倫・政経 数：数I・数Aと 数II・数B、簿、情報から1 理：物、化、生、地学から2 外：英、独、仏、中、韓から1 〔5教科7科目〕 ※20頁【注】1. を参照してください。
出願期間	令和2年1月21日（火）から令和2年1月24日（金）
選抜期日	令和2年2月10日（月）面接
合格者発表日	令和2年2月12日（水）
その他	(1) 一般入試への出願 推薦入試で不合格となった場合に備えて、別途国公立大学一般入試に出願することができます。 なお、本学を受験する場合は、別途出願手続を行ってください。 (2) 募集要項について インターネット出願の導入により、冊子体での配付は行いません。 大学入試センター試験を課す推薦入試の募集要項は、11月下旬に本学ホームページに掲載する予定です。

8. 大学入試センター試験を課さない推薦入試

実施学部	文 学 部
募集人員	15名
出願資格・要件	<p>当学部の「アドミッション・ポリシー」に合致することに加え、次の①から③の出願要件のすべてを満たす者。①学業及び人物ともに傑出し、学校長等が責任をもって推薦できること、②調査書の学習成績概評がA段階であること、③合格した場合には必ず入学することを確約できること。</p> <p>なおかつ、次の(1)から(3)の出願資格のいずれかに該当する者。</p> <p>(1) 高等学校又は中等教育学校を令和2年3月卒業見込みの者</p> <p>(2) 学校教育法施行規則第93条第3項の規定に基づき令和元年度中に高等学校又は中等教育学校を卒業又は卒業見込みの者</p> <p>(3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成31年4月から令和2年3月までに修了又は修了見込みの者</p> <p>なお、各高等学校等から推薦できる人数は、2名以内とします。</p>
主な提出書類	<p>A 提出を求めるもの（必須） 志願理由書、推薦書及び調査書</p> <p>B 任意で提出を求めるもの 次の①～⑥に該当するものがある場合は書類を提出してください。</p> <p>① 語学力を示す各種試験のスコア（TOEFL・IELTS・TOEIC・英検・GTEC・HSK・中検・DELTA/DALF・仏検・Goethe-Zertifikat・独検等）</p> <p>② 国際バカロレアのスコア</p> <p>③ スーパーグローバルハイスクール（SGH）・スーパーサイエンスハイスクール（SSH）における活動</p> <p>④ 全国規模・地方規模の人文学分野のコンテスト等への参加状況</p> <p>⑤ 科学オリンピック等の実績</p> <p>⑥ その他各種活動状況、表彰、資格に関する証明書等</p>
選抜方法等	<p>上記出願資格・要件を満たす者に対し、大学入試センター試験を課さないで、書類審査及び小論文・面接による選抜を実施します。選抜は、第1次選考と第2次選考により行います。</p> <p>第1次選考は、書類審査（志願理由書、推薦書及び調査書）により行い、約30名を第1次合格者とします。</p> <p>第2次選考は、第1次合格者に対して小論文及び面接を課し、総合的に選考して合格者を決定します。なお、任意で提出された書類については第2次選考の参考にさせていただきます。</p>
出願期間	令和元年11月1日（金）から令和元年11月7日（木）
選抜期日	令和元年11月20日（水）小論文及び面接
合格者発表日	令和元年11月28日（木）
その他	<p>(1) 一般入試への出願 推薦入試で不合格となった場合は、あらためて国公立大学一般入試に出願することができます。なお、本学を受験する場合は、大学入試センター試験を受験の上、別途出願手続を行ってください。</p> <p>(2) 募集要項について 文学部の推薦入試の募集要項は7月中旬から配付します。 募集要項の入手方法は、37頁を参照してください。</p>

9. 私費外国人留学生入試

私費外国人留学生として本学への入学を志願する者に対して、大学入試センター試験を免除し、一般の入学試験とは別に入学試験を実施します。

1) 実施学部

全学部

2) 募集人員

全学部 若干名

3) 出願資格・要件

次の(1)の出願資格を有し、かつ、(2)の要件を満たす者

(1) 出願資格

次の①及び②に該当する者

① 日本国籍を有しない者（日本国永住許可を得ている者を除く。）

② 次のいずれかに該当する者

ア 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者及び令和2年（2020年）3月31日までに修了見込みの者、又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの

イ スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格を有する者

ウ ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格を有する者

エ フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格を有する者

オ グレートブリテン及び北部アイルランド連合王国の大学入学資格として認められているジェネラル・サーティフィケート・オブ・エデュケーション・アドバンスト・レベル資格（GCEA レベル資格）を有する者

カ 文部科学大臣が指定する国際的な評価団体（WASC、ACSI、CIS）から教育活動等に係る認定を受けた教育施設に置かれる12年の課程を修了した者

キ 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業したものと同等以上の学力があると認められた者で、令和2年（2020年）3月31日までに18歳に達するもの

（上記「オ・キ」により出願しようとする者は、令和元年（2019年）10月1日（火）から11月1日（金）までに、教育推進部入試課に申し出て、所定の申請手続きを行う必要があります。）

【注】 1. 上記出願資格の「外国において、学校教育における12年の課程」には、日本の教育課程による期間も含まれますが、高等学校又は高等学校に対応する学校の課程を卒業（修了）した者及び令和2年（2020年）3月31日までに卒業（修了）する見込みの者は、出願が認められません。なお、不明な点は教育推進部入試課まで照会してください。

【注】 2. 上記アの「これに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの」は次のものが含まれます。

・外国において、学校教育における12年の課程を修了した者と同等の学力があるかどうかに関する認定試験であると認められる当該国の検定（国の検定に準ずるものを含む。下記において同じ。）に合格した者で、令和2年（2020年）3月31日までに18歳に達するもの

・外国において、高等学校に対応する学校の課程を修了した者（これと同等以上の学力があるかどうかに関する認定試験であると認められる当該国の検定に合格した者を含む。）で、文部科学大臣が別に定めるところにより指定した我が国の大学に入学するための準備教育を行う課程又は研修施設の課程等を修了したもの

- ・外国において、高等学校に対応する学校の課程（その修了者が当該外国の学校教育における11年以上の課程を修了したとされるものであることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを修了したもの
- ・我が国において、高等学校に対応する外国の学校の課程（その修了者が当該外国の学校教育における12年の課程を修了したとされるものに限る。）と同等の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設の当該課程を修了した者
- ・我が国において、高等学校に対応する外国の学校の課程（その修了者が当該外国の学校教育における12年の課程を修了したとされるものを除く。）と同等の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設の当該課程を修了した者で、文部科学大臣が別に定めるところにより指定した我が国の大学に入学するための準備教育を行う課程を修了したもの

(2) 要件

次の①及び②を満たす者

- ① 独立行政法人日本学生支援機構が実施する「日本留学試験」の科目のうち本学が指定した下記の科目を本年度に受験し、次項の要件にある得点を取得した者

学部（学科）	受 験 科 目	要 件
・文学部 ・教育学部 ・法学部 ・経済学部	日本語、総合科目、 数学コース1	日本語（読解、聴解、聴読解）：220点以上 総合科目・数学コース1：265点以上
・情報学部 （人間・社会情報学科）	日本語、総合科目、 数学コース1	日本語（記述、読解、聴解、聴読解）：300点以上 総合科目・数学コース1：265点以上
・情報学部 （自然情報学科）	日本語、理科(物理、化学、 生物から2科目選択)、 数学コース2	日本語（記述、読解、聴解、聴読解）：300点以上 理科・数学コース2：265点以上
・情報学部 （コンピュータ科学科）	日本語、理科（物理1科目 及び「化学、生物」から 1科目選択の合計2科目）、 数学コース2	日本語（記述、読解、聴解、聴読解）：300点以上 理科・数学コース2：265点以上
・理学部	日本語、理科(物理、化学、 生物から2科目選択)、 数学コース2	日本語（記述、読解、聴解、聴読解）：320点以上 理科・数学コース2：300点以上
・医学部 （医学科）	日本語、理科(物理、化学、 生物から2科目選択)、 数学コース2	日本語（記述、読解、聴解、聴読解）：360点以上 理科・数学コース2：320点以上
・医学部 （保健学科）	日本語、理科(物理、化学、 生物から2科目選択)、 数学コース2	日本語（記述、読解、聴解、聴読解）：300点以上 理科・数学コース2：265点以上
・工学部	日本語、理科(物理、化学)、 数学コース2	日本語（記述、読解、聴解、聴読解）：300点以上 理科・数学コース2：265点以上
・農学部	日本語、理科(物理、化学、 生物から2科目選択)、 数学コース2	日本語（記述、読解、聴解、聴読解）：250点以上 理科・数学コース2：265点以上

【注】 受験科目の出題言語は、日本語を選択し受験してください。

* 「日本留学試験」についての照会は、下記に問い合わせてください。

独立行政法人 日本学生支援機構 留学生事業部 留学試験課
〒153-8503 東京都目黒区駒場4丁目5番29号
TEL (03) 6407-7457 FAX (03) 6407-7462
E-mail jasso_eju@jasso.go.jp

② TOEFL 又は IELTS (Academic Module) を出願前2年以内に受験し、下記の学部(学科)が指定したいずれかの得点を取得した者

学部(学科)	要件
・文学部	TOEFL-iBT 61点以上 IELTS 5.5以上
・教育学部 ・情報学部 ・医学部(保健学科)	TOEFL-iBT 61点以上
・法学部	TOEFL-iBT 61点以上 IELTS 4.5以上
・経済学部 ・工学部	TOEFL-iBT 71点以上
・理学部	TOEFL-iBT 71点以上 改訂版 TOEFL ペーパー版テスト 53点以上
・医学部(医学科)	TOEFL-iBT 90点以上
・農学部	TOEFL-iBT 61点以上 改訂版 TOEFL ペーパー版テスト 46点以上

【注】1. TOEFL を受験する場合は、「Institutional Score Report (又は Official Score Report)」を ETS から本学へ送付する手続きを必ず行ってください。なお、「Institutional Score Report (又は Official Score Report)」が出願期間最終日までに届かない場合は、書類不備のため出願を受け付けません。

本学の TOEFL における DI コード (Designated Institution Code) は「0312」です。また、TOEFL-ITP のスコアは利用できません。

*出願期間直前の10月・11月は、ETS に「Institutional Score Report (又は Official Score Report)」の発行手続きをしても、本学に届くまで2ヶ月以上の時間がかかる場合があるため、遅くとも出願の2ヶ月以上前までに、受験のうえ発行手続きを行ってください。

【注】2. IELTS (Academic Module) を受験する場合は、成績証明書 (Test Report Form) の原本をテスト実施機関から大学へ送付する手続きを必ず行ってください。なお、成績証明書 (Test Report Form) が出願期間最終日までに届かない場合は、書類不備のため出願を受け付けできません。また、テスト実施機関から送付される電子証明書は無効です。

4) 選抜方法等

日本留学試験、英語検定試験 (TOEFL 又は IELTS) 及び本学が実施する入学試験 (学部・学科ごとに異なる。) 並びに出願書類により総合的に選考して合格者を決定します。

5) 出願期間

令和元年12月26日 (木) から令和2年1月8日 (水)

6) 試験期日

令和2年2月4日(火)

7) 合格者発表日

令和2年2月17日(月)

8) その他

詳細は、9月中旬発表予定の「令和2年度名古屋大学私費外国人留学生募集要項」を参照してください。
募集要項を請求する場合は以下のいずれかの方法で行ってください。

① 『モバっちょ』を利用して請求する場合

37頁の請求方法を参照してください。

② 国外から郵送で請求する場合

送付先を明記した封筒(角形2号、約33×24cm)と航空書状250グラム相当料金(日本から郵送可能な料金)の国際返信切手券(INTERNATIONAL REPLY COUPON)を同封して「**私費外国人留学生募集要項請求**」と朱書きし、名古屋大学教育推進部入試課(〒464-8601 名古屋市千種区不老町 D4-4 (100))あてに申し込んでください。

10. 国際プログラム群学部学生入試(10月入学)

名古屋大学国際プログラム群(英語による教育で学位が取得できる教育プログラム)の学部学生(外国人留学生及び帰国子女等)の入試を実施します。

1) プログラム(実施学部)

自動車工学プログラム(工学部)、物理系プログラム(理学部)、
化学系プログラム(理学部、工学部)、生物系プログラム(理学部、農学部)、
国際社会科学プログラム(法学部、経済学部)、「アジアの中の日本文化」プログラム(文学部)

2) 募集人員

全プログラム 若干名

3) 出願資格等

出願資格・要件、選抜基準、出願期間及び合格発表日については、2020年度募集要項で9月上旬に公表します。

名古屋大学国際プログラム群のホームページ(<http://admissions.g30.nagoya-u.ac.jp/>)で確認してください。

V 募集要項、大学案内及び学部紹介冊子の請求

1. 募集要項の配付時期

○7月中旬から配付

・センター試験を課さない推薦入試学生募集要項（文学部）

○9月中旬から配付

・私費外国人留学生募集要項

○11月下旬からダウンロード

・一般入試、推薦入試学生募集要項

（前期日程：全学部

後期日程：医学部医学科

センター試験を課す推薦入試（教育学部、法学部、経済学部、情報学部、理学部、医学部、工学部、農学部）

名古屋大学ホームページ（<http://www.nagoya-u.ac.jp/>）→ 入学案内 → 学部募集要項／大学案内など → 大学案内・選抜要項・募集要項・インターネット出願）からダウンロードしてください。

○9月上旬からダウンロード

・国際プログラム群学部学生募集要項

名古屋大学国際プログラム群のホームページ（<http://admissions.g30.nagoya-u.ac.jp/>）からダウンロードしてください。

2. 募集要項、大学案内及び学部紹介冊子の請求方法

(1) 本学のホームページから請求する場合

本学のホームページから『モバっちょ』を利用して募集要項、大学案内及び学部紹介冊子の資料が請求できます。（名古屋大学ホームページ（<http://www.nagoya-u.ac.jp/>）→ 入学案内 → 学部募集要項／大学案内など → 学生募集要項・大学案内等の入手方法）

※インターネット出願のため、一般入試学生募集要項及びセンター試験を課す推薦入試学生募集要項について、冊子体での配付は行いません。

(2) 『モバっちょ』から請求する場合

携帯電話、スマートフォン、パソコンから請求できます。

<https://djc-mb.jp/nagoya-u3/>



【料金の支払い方法】

①請求時払い

携帯払い、スマホ払い、クレジットカード払いができます。（別途手数料が50円必要です。）

※携帯電話・スマホの機種、携帯電話会社との契約状況によって、通話料金と一緒に支払いできない場合がございます。その場合、コンビニ後払いを選択してください。

②コンビニ後払い

資料到着後、コンビニでお支払いください。（別途手数料が126円必要です。）

■ 上記請求方法についての問合せ先

大学情報センター株式会社 モバっちょカスタマーセンター

TEL. 050-3540-5005（平日10：00～18：00）

Ⅵ 名古屋大学の概要

1. 沿革

●前身校期

1871 (明治4) 年	仮病院 仮医学校開設
1872 (明治5) 年	義病院設置
1873 (明治6) 年	仮病院 医学講習場設置
1875 (明治8) 年	愛知県病院設置
1876 (明治9) 年	公立医学講習場 公立医学所設置
1878 (明治11) 年	公立医学校設置
1881 (明治14) 年	愛知医学校設置
1901 (明治34) 年	愛知県立医学校設置
1903 (明治36) 年	愛知県立医学専門学校設置
1908 (明治41) 年	第八高等学校設置
1920 (大正9) 年	愛知医科大学設置 名古屋高等商業学校設置
1931 (昭和6) 年	(官立移管) 名古屋医科大学設置

●帝国大学 (旧制大学) 期

1939 (昭和14) 年	名古屋帝国大学創設 (医学部と理工学部の2学部) 名古屋帝国大学臨時附属医学専門部設置
1942 (昭和17) 年	名古屋帝国大学理工学部を理学部と工学部に分離
1943 (昭和18) 年	名古屋帝国大学航空医学研究所設置 (1945年廃止)
1944 (昭和19) 年	名古屋工業経営専門学校設置 (1946年廃止) 名古屋経済専門学校設置 名古屋帝国大学附属医学専門部設置
1945 (昭和20) 年	岡崎高等師範学校設置
1946 (昭和21) 年	名古屋帝国大学環境医学研究所設置
1947 (昭和22) 年	名古屋大学 (旧制) と改称
1948 (昭和23) 年	名古屋大学文学部、法経学部を設置

●新制大学期

1949 (昭和24) 年	旧制名大、医専部、八高、名経専、岡崎高師を包括 文、教育、法経、理、医、工の6学部及び環境医学研究所で新制名古屋大学として発足 空電研究所、附属図書館、分校 (教養部) を設置
1950 (昭和25) 年	法経学部を法学部と経済学部に分離
1951 (昭和26) 年	農学部設置
1953 (昭和28) 年	文学、教育学、法学、経済学、理学、工学の6研究科を設置 (文学研究科2018年廃止)
1955 (昭和30) 年	医学、農学の2研究科を設置
1961 (昭和36) 年	プラズマ研究所設置 (1989年廃止、核融合科学研究所へ発展)
1963 (昭和38) 年	教養部設置 (1993年廃止)
1971 (昭和46) 年	大型計算機センター設置 (2002年廃止)
1973 (昭和48) 年	水圏科学研究所設置
1977 (昭和52) 年	名古屋大学医療技術短期大学部併設 (2001年廃止)
1990 (平成2) 年	空電研究所を太陽地球環境研究所に改組
1991 (平成3) 年	大学院国際開発研究科設置
1992 (平成4) 年	大学院人間情報学研究科設置 (2003年廃止)
1993 (平成5) 年	情報文化学部設置 (2018年廃止) 水圏科学研究所を大気水圏科学研究所に改組 (2001年廃止)
1995 (平成7) 年	大学院多元数理科学研究科設置
1997 (平成9) 年	大学院農学研究科を大学院生命農学研究科に改称
1998 (平成10) 年	大学院国際言語文化研究科設置 (2018年廃止)
2000 (平成12) 年	大学院教育学研究科を大学院教育発達科学研究科に改称
2001 (平成13) 年	大学院環境学研究科設置 地球水循環研究センター設置 (2015年廃止)
2002 (平成14) 年	情報連携基盤センター設置 (2009年廃止) 大学院医学研究科を大学院医学系研究科に改称
2003 (平成15) 年	大学院情報科学研究科設置 (2018年廃止)

●国立大学法人期

2004 (平成16) 年	国立大学法人名古屋大学設立 大学院法学研究科実務法曹養成専攻 (法科大学院) 設置
2006 (平成18) 年	エコトピア科学研究所設置
2009 (平成21) 年	情報基盤センター設置
2012 (平成24) 年	大学院創薬科学研究科設置
2015 (平成27) 年	太陽地球環境研究所等を宇宙地球環境研究所に改組 エコトピア科学研究所を未来材料・システム研究所に改組
2017 (平成29) 年	情報学部設置 大学院人文学研究科設置 大学院情報学研究科設置
2018 (平成30) 年	「指定国立大学法人」に指定

2. 教育課程

本学における教育課程の体系は次表のとおりです。各学部では、この教育課程に基づき、4年一貫（医学部医学科は6年一貫）教育課程を編成し、それぞれ卒業までに修めなければならない科目及びその単位数を定めています。

また、文学部では2年次、理学部では1年次、医学部医学科では2年次、3年次及び4年次、工学部では1年次及び2年次、農学部では2年次及び3年次終了時に、それぞれの学部で定める単位数を修得していないと、次学年に進級できません。

科目区分		内容
専門系科目	専門科目	各学部の学科、専攻の専門系科目のうち最も中核的な科目（卒業論文又は卒業研究を含む。）
	関連専門科目	専門科目の周辺に位置する科目で、専門科目の教育効果をより高めるための科目
	専門基礎科目	専門科目、関連専門科目などを理解するのに必要な、専門に直結した基礎教育科目
基礎科目	全学基礎科目	初年次生を大学教育へ導入し、自立した学習能力を身につけるとともに、文・理に共通した基礎的学力や技能を養う科目
	基礎セミナー	多面的な知的トレーニングによって、コモンベシックとしての読み、書き、話す能力のかん養を図るとともに、真理探究の方法と面白さを学ぶ科目
	言語文化	専門的学習のツールとしての外国語の能力を高め、異文化理解を深めて、国際社会に相応しい教養を育む科目
	健康・スポーツ科学	健康に関する自己管理能力、生涯スポーツの基礎となる技能の習得、スポーツを通じたコミュニケーション能力やリーダーシップを育む科目
	文系基礎科目	人文・社会科学系分野の学問体系を認識するとともに、自主的判断能力を培う科目
	理系基礎科目	自然科学系分野の学問体系を認識するとともに、自主的判断能力を培う科目
教養科目	文系教養科目	人文・社会科学系分野の諸現象について、それらの諸現象を学際的、総合的に分析、把握する能力を育むとともに、他の学問分野との関連性について理解する科目
	理系教養科目	自然科学系分野の諸現象について、それらの諸現象を学際的、総合的に分析、把握する能力を育むとともに、他の学問分野との関連性について理解する科目
	全学教養科目	専門分野を問わず、豊かな人間性を育み、総合的判断能力をかん養する科目
	開放科目	学生の自主的で多様な学習意欲に応えるため、学部等が開講する専門系授業科目のうち、他学部の学生の受講が可能であり、かつ、有意義であると認めて全学に開放する科目

【注】教育課程の最新情報は、名古屋大学教養教育院のホームページ
[\(http://www.ilas.nagoya-u.ac.jp/\)](http://www.ilas.nagoya-u.ac.jp/) で確認してください。



3. 学部・学科等

学部・学科名及び1学年当たりの定員は次のとおりです。

なお、経済学部及び理学部の入学者選抜は、学科別ではなく学部全体として行います。各学科や各専攻等へは、下記に示す時期に志望により配属されます。ただし、志望者が当該学科や専攻等の定員を超える場合は、選考を行うことがあります。

学科・専攻等への配属時期について

文学部（分野・専門への配属）	2年次の前期	情報学部（系への配属）	3年次の前期
教育学部（コースへの配属）	2年次の後期	理学部（学科への配属）	2年次の前期
経済学部（学科への配属）	2年次の前期	工学部環境土木・建築学科 （プログラムへの配属）	2年次の前期

◎ 文学部

人文学科 125名

文芸言語学コース(言語学、日本語学、日本文学、英語学、英米文学、フランス語フランス文学、ドイツ語ドイツ文学、中国語中国文学)、哲学倫理学コース(哲学、西洋古典学、中国哲学、インド哲学)、歴史学・人類学コース(日本史学、東洋史学、西洋史学、美学美術史学、考古学、文化人類学)、環境行動学コース(社会学、心理学、地理学)

◎ 教育学部

人間発達科学科 65名

生涯教育開発コース 心理社会行動コース
学校教育情報コース 発達教育臨床コース
国際社会文化コース

◎ 法学部

法律・政治学科 150名

◎ 経済学部

経済学科 140名

経営学科 65名

◎ 情報学部

自然情報学科 38名

数理情報系、複雑システム系

人間・社会情報学科 38名

社会情報系、心理・認知科学系

コンピュータ科学科 59名

情報システム系、知能システム系

◎ 理 学 部

数 理 学 科	55名	生 命 理 学 科	50名
物 理 学 科	90名	地 球 惑 星 学 科	25名
化 学 科	50名		

◎ 医 学 部

医 学 科	100名【注】		
保 健 学 科			
看 護 学 専 攻	80名	理 学 療 法 学 専 攻	20名
放 射 線 技 術 学 科 専 攻	40名	作 業 療 法 学 専 攻	20名
検 査 技 術 学 科 専 攻	40名		

◎ 工 学 部

化学生命工学科	99名	エネルギー理工学科	40名
物理工学科	83名	環境土木・建築学科	80名
マテリアル工学科	110名	環境土木工学プログラム	} JABEE 認定の 技術者教育プログラム
電気電子情報工学科	118名	建築学プログラム	
機械・航空宇宙工学科	150名		

◎ 農 学 部

生 物 環 境 学 科	35名
資 源 生 物 学 科	55名
応 用 生 命 学 科	80名

【注】 医学部医学科については、暫定的な医学部定員増への延長申請を予定しており、変更があり得ます。

4. 大学院

学部を卒業した後、更に専門分野について深く研究しようとする者は、選考を経て大学院に入学することができます。本学の大学院には、人文学・教育発達科学・法学・経済学・情報学・理学・医学系・工学・生命農学・国際開発・多元数理科学・環境学・創薬科学の各研究科が設けられています。

研究科		専攻
人文学研究科（1専攻）		人文学
教育発達科学研究科（2専攻）		教育科学、心理発達科学
法学研究科（2専攻）		総合法政、実務法曹養成（法科大学院）
経済学研究科（2専攻）		社会経済システム、産業経営システム
情報学研究科（6専攻）		数理情報学、複雑系科学、社会情報学、心理・認知科学、情報システム学、知能システム学
理学研究科（4専攻）		素粒子宇宙物理学、物質理学、生命理学、名古屋大学・エディンバラ大学国際連携理学
医学系研究科	修士課程（1専攻）	医科学
	前期課程（1専攻）	総合保健学【注】2
	医学博士課程（4専攻）	総合医学、名古屋大学・アデレード大学国際連携総合医学、名古屋大学・ Lund 大学国際連携総合医学、名古屋大学・フライブルク大学国際連携総合医学
	後期課程（1専攻）	総合保健学【注】2
工学研究科（17専攻）		有機・高分子化学、応用物質化学、生命分子工学、応用物理学、物質科学、材料デザイン工学、物質プロセス工学、化学システム工学、電気工学、電子工学、情報・通信工学、機械システム工学、マイクロ・ナノ機械理工学、航空宇宙工学、エネルギー理工学、総合エネルギー工学、土木工学
生命農学研究科（6専攻）		森林・環境資源科学、植物生産科学、動物科学、応用生命科学、名古屋大学・カセサート大学国際連携生命農学、名古屋大学・西オーストラリア大学国際連携生命農学
■国際開発研究科（1専攻）		◆国際開発協力
■多元数理科学研究科（1専攻）		◆多元数理科学
■環境学研究科（3専攻）		◆地球環境科学、◆都市環境学、◆社会環境学
■創薬科学研究科（1専攻）		◆基盤創薬学

【注】1. ■…独立研究科 ◆…独立専攻

【注】2. 令和2年4月に改組する予定です。なお、この計画は、文部科学省大学設置・学校法人審議会の審査結果により確定するものであり、今後、変更があり得ます。

Ⅶ 令和3年度以降の入学選抜方法について

令和3年度以降の入学選抜について、以下のとおり実施しますので、お知らせいたします。変更等があり次第、随時以下のホームページに概要を公表します。

名古屋大学ホームページ (<http://www.nagoya-u.ac.jp/> → 入学案内 → 学部入試の概要 → 教育の基本方針)

なお、国際プログラム群学部学生入試(10月入学)における入学選抜方法の変更等は、以下のホームページでご確認ください。

<http://admissions.g30.nagoya-u.ac.jp/>

●令和2年度に実施する令和3年度入学選抜における出願資格（英語4技能評価）について

1. 出願資格

一般入試の全志願者、及び、文学部、教育学部、理学部を除く推薦入試の全志願者に、CEFRのA2レベル以上に相当する英語力を出願資格として求めます。

2. 確認方法

以下の(1)~(3)のいずれかにより、英語力に関する出願資格を確認します。

- (1) 大学入学共通テストにおける認定試験の成績（CEFR対照表でA2レベル以上に相当するもの）
- (2) CEFRのA2レベル以上^{*1}に相当する英語力があると認められることが明記されている高等学校等^{*2}による証明書^{*3}
- (3) 何らかの理由で上記(1)(2)のいずれも提出できない者については、その理由^{*4}を記した理由書^{*3}

^{*1} CEFRのA2レベル（ブリティッシュ・カウンシル出典）

ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事等、直接的関係がある領域に関しては、文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄について、単純で直接的な情報交換に応じることができる。

^{*2} いわゆる高等学校のほか、中等教育学校、専修学校の高等課程、高等専門学校等、本学の入学選抜要項でその卒業・修了により出願資格が認められた学校をすべて含む。

^{*3} 様式については、当該年度の学生募集要項をご確認ください。様式例を以下のホームページに掲載しています。

名古屋大学ホームページ (<http://www.nagoya-u.ac.jp/> → 入学案内 → 学部入試の概要 → 教育の基本方針)

また、上記(3)の理由書には、高等学校等による英語力に関する証明が得られない理由、及び、下記^{*4}等の認定試験の成績を提出できない理由の双方の記載を求めます。

^{*4} 障害や事故、病気等のやむを得ない理由で、認定試験を受験できなかった者等。

●大学入学共通テストの外国語試験について

一般入試の全受験者に、大学入学共通テストの外国語試験（英語の場合、リスニングを含む）を課します。共通テストを課す推薦入試については、原則として一般入試と同様とします。

なお、「外国語」の「英語」を選択した場合の筆記試験とリスニングテストの配点については、今後公表します。

●大学入学共通テストの記述式試験問題の利用について

一般入試の全受験者に、大学入学共通テストの記述式問題を課します。共通テストを課す推薦入試については、原則として一般入試と同様とします。

国語

記述式問題の段階別評価を点数化してマーク式問題の得点に加算し、200点満点に換算します。配点等については、今後公表します。

数学 I ・ 数学 A

記述式問題とマーク式問題の得点を合計し、100点満点とします。

●令和 2 年度に実施する令和 3 年度個別学力検査からの変更点について

【全学部対象】

外国語の試験科目を英語のみとし、ドイツ語、フランス語、中国語の実施を廃止します。

【医学部医学科対象】

個別学力検査（前期日程）における国語の出題範囲を以下のとおり変更します。

国語総合・現代文 B（古文・漢文を除く。）

（現行：国語総合・現代文 B・古典 B）

※配点は現行どおり150点とする。

個別学力検査（後期日程）は2段階選抜を実施しません。

【医学部保健学科対象】

個別学力検査（前期日程）における実施教科・科目を以下のとおり変更します。

「数学 [500点満点]」、「理科 [500点満点]」、「外国語 [500点満点]」及び「国語（国語総合・現代文 B（古文・漢文を除く。）） [150点満点]」

（現行：「数学 [500点満点]」、「理科 [500点満点]」及び「外国語 [500点満点]」）

●一般入試における主体性等の評価について

一般入試における「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」の評価（調査書等の活用）につきましては、新学習指導要領に移行する令和 7 年度入学者選抜に向けて検討を継続いたします。

【注】 令和 3 年度入学者選抜より、「一般入試」→「一般選抜」、「推薦入試」→「学校推薦型選抜」と名称が変更になります。

●令和2年度に実施する令和3年度個別学力検査からの個別学力検査実施教科・科目の出題方針について

教科・科目等	出題方針
国語	<p>国語の問題は〈現代文〉1題、〈古文〉1題、〈漢文〉1題の計3題を出題します。(国語を課す学部のうち、理学部および医学部の志望者は〈現代文〉のみを解答することになります。)いずれも、国語に関する基礎知識を前提に、問題文の正確な読解力と思考力、そして解答をまとめる表現力を問います。</p> <p>〈現代文〉は、まず、問題文が正確に読み取れているかを問います。そのため、漢字の読み・書き取りについても、文脈を正確に理解していないと解けない問題も出題しています。設問は、記述式の問題が中心ですが、その設問に答えていくことで、問題文のより深い読解ができるように配慮しています。また、傍線部や空欄の前後だけではなく、文章全体を論理的に把握した上で、細部にも目を向けていくような読み方を求めています。解答にあたっては、与えられた字数内で的確に表現する力も測ります。</p> <p>〈古文〉は、まず、基本的な語彙・文法、和歌・俳句などについての知識、そして文学史などの基本的な知識が身につけていることが前提です。その上で、問題文の全体的な論旨の流れ、作者の心情、和歌・俳句などの解釈、比喩の意味などを理解することを求めます。さらに、解答にあたっては、限られた範囲の字数で適切に表現する能力についても測ります。</p> <p>〈漢文〉は、漢文を読み解く前提となる、基本的な重要語および句法(句形)を理解しているか、そして、文脈の中で適切に口語訳あるいは書き下しができるかを問います。その上で、問題文の読解にあたっては、文脈を正確に把握することはもちろん、その文章内の時代背景や思想、登場人物についても理解できているかを判断します。また、解答にあたっては、与えられた字数内で適切に表現する能力についても測ります。</p>
世界史	<p>世界史では、古代から現代までの世界の歴史事象について、高等学校までに学校教科書で学ぶ世界史の基礎知識を踏まえて、問題文と関連史資料を正確に理解し、設問に的確に答える力を判定します。また、論述問題では、これまでに修得した世界史の知識を踏まえて、制限字数の範囲内で設問に対する自分の考えを論理的にまとめる思考力と構成力を特に重視します。</p> <p>世界史が対象とする地域は多岐にわたっていますが、それらの地域の歴史について考えるにあたっては、常に私たちが暮らしている現代の社会がその出発点となります。しかし、このことは、決して時空間を遠く隔てた世界の歴史事象の軽視を正当化するものではありません。世界の歴史は時系列に沿って単純に展開するものではなく、そこにはその時々において繰り返し参照される過去があり、それが歴史の動態に様々な影響を及ぼしていることを見逃してはならないでしょう。また、複数の世界のあいだで行われた交易や戦争、あるいは思想の伝播などの複雑な異文化交流がしばしば歴史の原動力となったことにも、注意が向けられなくてはなりません。これらのことは、教科書の静態的な叙述を漫然と読み流しているだけでは理解が難しいことかもしれませんが、歴史書、文学作品、映像、絵画や音楽などの芸術作品も手がかりとすることによって、世界各地の過去の人々の暮らしに対するイメージを膨らませながら、個々の歴史事象とその相互関係を理解するように努めてください。</p>
地理歴史	<p>日本史では、原始・古代から現代までを対象にして、高等学校までに学校教科書で学ぶ歴史・日本史・世界史の基礎知識を踏まえて、問題文を正確に読み解き、設問および関連資料をも活用しながら、与えられた制限字数の範囲内での確かな語句・文または文章で答案を作成する力を判定します。</p> <p>日本史が対象とする地域は「日本」ですが、その意味する範囲は時代によって広がったり縮んだりして変化します。そうした変化は、「日本」という地域内に生きた人々の営みや、「日本」を取り巻く周辺地域との人的・物的・文化的な様々な相互交渉によってもたらされてきました。「日本」を取り巻く周辺地域として分かりやすいのは、たとえば朝鮮半島や中国大陸といった「外国」でしょうが、日本史を教える立場からすれば、日本列島内部にもそうした周辺地域は存在します。また、そうした「日本」という地域の伸縮は、「日本」という概念にも変化を与えることとなりますから、現代における「日本」「日本人」「日本文化」について、相対的、批判的、多角的に考え直すことが必要となってきます。こうした様々な変化は学校教科書にも記述されていますが、少し意識しないと見過ごしてしまうかもしれません。時代や地域の変化に留意しながら、原始・古代から現代にいたる時代それぞれの歴史的事象を理解するよう努めてください。</p> <p>設問には歴史資料や図表などが添えられることがあります。それらは学校教科書に掲載されている資料・図表ばかりではありませんが、これまでに学習してきた日本史ほかの教科を通して身につけた知識を使うことによって読み解くことができるものばかりです。未知の資料・図表であっても、そうした既知の知識を活用して的確に判断できるよう求めるものです。そして、答案は一定の字数制限のもとで作成することになりますから、筋道を立てて説明する論理的な文章を的確に整理して書くよう努めてください。</p>

教科・科目等		出題方針
地理歴史	地理	<p>地理では、現代世界にかかわる様々な地理的事象について、高等学校までに学校教科書で習得する〈系統地理〉、〈地誌〉の知識を踏まえて、問題文と図表を正確に読解し、的確な表現と適切な字数で設問に答える能力を判定します。</p> <p>〈系統地理〉は、自然地理学と人文地理学の二つに大別されます。前者においては、地震や火山、河川、氷河などによって形成される地形、気温や降水量、風といった要素の総合的な状態を扱う気候、気温や降水量と密接に関係する植生や土壌、さらには環境問題や災害などに代表される自然環境と人間生活との関わりを理解することが求められます。後者においては、現代世界における資源、農林水産業や工業、商業といった産業、人口分布やその変化、都市・村落の機能とそれらの変容、衣食住に代表される生活文化、民族・宗教に関する諸事象の空間的特徴とそれらが生起する要因について問います。〈地誌〉では、歴史や文化などを基礎とし、現代世界を構成する諸地域をさまざまな空間スケールで多面的・多角的に考察し、現代における多様な地域の今日的な特徴や課題を深く理解する能力が要求されます。</p> <p>地理の出題では、こうした〈系統地理〉と〈地誌〉に関する基本的な知識とともに、総合的な地域理解の基本ができていくかどうかを重視します。地表面における自然環境と人間活動を基本として、地理的事象にどのような空間的な規則性や傾向性がみられるのか、位置や距離、空間的な配置、時間変化に留意して、各種の地図や図表、写真などからそれらを読み取ることができるかどうかを問題にします。とくにさまざまな地理情報が表現されている地図の活用および読解能力は必須です。</p>
	数学	<p>数学では、答えを求めさせる問題以外に、証明問題も出題することがあります。いずれの場合も、解答の形式は、いわゆる論述形式であり、答えを求めさせる問題の場合でも、答えの導出にいたるまでの道筋を記述させて評価対象とします。これにより、高校までに学習する数学の基礎に対する理解を前提とし、名古屋大学での学習に必要な数学的能力が十分に身に付いているかを評価します。問題の趣旨を的確に把握する理解力はもちろんのこと、与えられた前提条件から結論にいたるまでの解答の筋道を組み立てる論理的思考力や、必要な計算をこなして結果を導く計算力、限られたスペースに解答を筋道だった文章で的確にまとめる表現力を測ります。さらに、数学的知識の系統的な理解を必要とする分野融合問題の出題などを通じて、数学の応用力も測ります。これらの能力は互いに独立ではなく、例えば適切な計算量によって計算結果を導くには、計算も予測を持って行う必要があり、論理的に考える力が必要になります。また、それぞれの問題がいくつかの小問から成る場合は、小問の間の関連性を捉えることが求められ、理解力に留まらず、論理的思考力や直観力が問われます。この意味で、数学の能力は総合的に測られるべきものであり、総合的な数学力を測ることのできる問題を出題するようにしています。なお、文系と理系では、出題範囲・試験時間・問題数は異なりますが、出題方針は同じです。</p>
	物理	<p>物理では、「物理基礎」および「物理」の範囲から出題します。高等学校の物理では、目的意識をもって観察・実験を行うことを通じて、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、体系化された知識に基づいて自然の事物・現象を分析的かつ総合的に考察する能力を身につけることを目標としています。物理学の基礎知識や考え方は、「力と運動」、「熱とエネルギー」、「波」、「電気と磁力」といった様々な概念や原理・法則を系統的に理解するために必須のもので、これらの十分な修得が必要です。</p> <p>出題では、物理学に関する基本的事項の理解度と物理学的な考察力・探求する能力を見るために、本学が指定する出題範囲から、なるべく分野的な偏りがないようにします。出題にあたっては、物理法則や関係式などの知識や最終的な答を問うだけでなく、そこに至る過程を論理的に述べる記述式問題も出題し、物理的な知識、思考力、理解力、計算力、論証力を総合的に評価します。</p>
理科	化学	<p>化学では、「化学基礎」および「化学」の範囲から出題します。高等学校の化学では、原子・分子と化学結合に関する正しい理解に基づいて、物質の性質や変化についての基本的な概念や原理・法則の理解を深めることを目標としています。自然界に存在する物質、生物体を形成し生体内で働く物質、人間生活を支える目的で作られた物質、環境問題や持続性に関連する物質などについての幅広い知識を論理的に組み合わせて活用する能力、またそれらを観察や実験を通して得られた知見と結びつけて活用する能力が必要です。</p> <p>出題では、「無機化学分野」、「有機化学分野」、「理論化学分野」などの枠にとらわれず、教科書の発展的内容なども出題するなど、各分野にわたった総合的な内容を重視します。化学反応式や数式で表された物質やエネルギーの状態や変化を理解し予測する力、観察・実験結果を物質の性質や変化に関する原理や法則と結びつける力、グラフ・図・化学構造式などの含まれる化学的な情報を読み解く力、実験結果などの図表として記述する力、観察・実験の目的と試薬・器具・条件・手順などとの関連を理解する力、解答に至る過程を論理的に記述する力、などを評価します。</p>

教科・科目等		出題方針
理科	生物	<p>生物では、「生物基礎」および「生物」の範囲から出題します。高校学校の生物では、大学で学ぶ生物学だけでなく、農学、医学、創薬学、環境学など広範なライフサイエンス分野全般の基礎を身につけることを目標としています。生物学で取り扱う空間的スケールは、原子・分子レベルのミクロの事象から、細胞、個体を経て、生態レベルのマクロな事象まで幅広く、時間的スケールも「一瞬」から数十億年にも及びます。結果として、生物は理科の中では教科書の情報量が最も多く、ともすると暗記科目とみなされがちですが、生命現象の基本原則を理解することが必要です。</p> <p>出題では、生命体の構造、物質代謝、生理、遺伝など、生命現象の根幹に関する基礎知識や理解を幅広く問いますが、各論的な事象に関する知識のみを問う問題を中心に据えることはありません。「観察に基づいて検証可能な仮説を立て、実験的に検証する」という自然科学の普遍的な方法論は生物学においても不可欠です。したがって、複雑な生命現象を注意深く観察する力、実験を組み立てる力、データを正しく読み取り分析する力、生命現象の背景にある物質的基盤やメカニズムを論理的に洞察し、論述する力、を評価します。</p>
	地学	<p>地学では、「地学基礎」および「地学」の範囲から出題します。高等学校の地学では、宇宙から地球、さらに地球を構成する原石中の鉱物に至るまでの幅広い空間スケールの対象を学びます。また時間スケールも、宇宙や地球の進化から私たちが日常的に接している気象現象まで、広い範囲の対象を学ぶことを目標としています。こうした様々な対象を扱う分野についての基礎知識の理解度とそれに基づいた考察力を身につけることが必要です。</p> <p>出題では、教科書の発展的内容に相当することや、環境問題や自然災害などの最近の話題に関することも出題するなど、地学の各分野の基礎知識だけでなく、分野をまたいだ総合的な内容を重視します。解答を通じて、地学に関する基礎知識の理解度、図表が示す情報を読み解く力、式の組み立てや計算などを通じて定量的に考察できる能力、与えられた情報や得られた結果に対する総合的な思考力、結果や考察を論理的に説明・記述する能力などを評価します。</p>
英語	<p>名古屋大学の英語教育では、「英語の専門書を読み、英語で論文を書いて口頭発表するために必要な基礎力を養成する」点に主眼が置かれています。したがって個別学力試験「英語」では、リーディングとライティングの問題を通して、英語で表現された情報を正確に把握する力と英語を使って発信する力があるかどうかを問います。</p> <p>リーディングの総合問題では、論旨の展開をおさえながら読み、書かれた内容を正確に理解する力や、文脈に即して作者の意図を読み解く力を測定します。</p> <p>会話文形式のリーディング問題では、談話の流れに沿って内容を把握する力や、英語の質問に英語で答える力を測ります。</p> <p>ライティングの問題では、適切な単語・表現・文法を使って自然な英文を書く力や、自身の意見を英語で論理的かつ正確に表現する力を問います。</p>	
小論文	<p>小論文では、論述式の問題を通して、課題文の論理を的確に理解したうえで、その理解に基づいて関連する現実の歴史や社会の問題を分析し、自身の理解や分析を与えられた文字数の中で文章として表現する能力を問うています。課題文は、広い意味で法や政治に関わるテーマのものから出題しており、高等学校で学ぶ地理、歴史および公民科目の知識を前提に、課題文を理解するために必要な基礎的な学力を有しているかを評価しています。また、歴史や社会の問題に関心を持っているか、課題文の論理に即して分析するために適切な問題を見つけているか、課題文の論理を応用して自身の視角から問題を分析することができるか、そうして導いた自身の考えを論理的に表現することができるか、などを総合的に評価しています。</p>	

●令和3年度に実施する令和4年度個別学力検査からの変更点について

【農学部対象】

個別学力検査（前期日程）における実施教科・科目を以下のとおり変更します。

「数学 [400点満点]」、「理科 [600点満点]」、「外国語 [400点満点]」及び

「国語（国語総合・現代文B（古文・漢文を除く。）」 [150点満点]」

（現行：「数学 [400点満点]」、「理科 [600点満点]」及び「外国語 [400点満点]」）

照会先一覧

1. 一般入試等


入 試 種 別		照 会 先
一般入試（前期日程、後期日程）		〒464-8601 名古屋市千種区不老町 D4-4 (100) 名古屋大学 教育推進部入試課 TEL 052-789-5765
センター試験を課す推薦入試（教育、法、経済、情報、理、医、工、農学部）		
私費外国人留学生入試		
センター試験を課さない 推薦入試	文 学 部	〒464-8601 名古屋市千種区不老町 B4-4 (700) 名古屋大学 文学部 入試担当 TEL 052-789-5245

【注】 1. 入学試験に関する照会は、上記において取り扱います。

（月曜日から金曜日 9時から17時〔祝日を除く。〕）

【注】 2. 文書での照会については、照会者本人の受信場所、郵便番号、氏名、出願予定の入試種別、志望学部を記載し、82円切手を貼った返信用封筒を同封の上、上記にお問い合わせください。

名古屋大学ホームページ
http://www.nagoya-u.ac.jp/

携帯電話用ウェブサイト
https://daigakujc.jp/nagoya-u/ 携帯電話用コードで アクセスできます。▶ 

2. 国際プログラム群学部学生入試

〒464-8601 名古屋市千種区不老町

名古屋大学 国際入試係 国際アドミッションオフィス

E-mail : apply@g30.nagoya-u.ac.jp TEL : 81-52-747-6556

本試験に関する照会は、照会者本人のメールアドレス・氏名等を明記し、国際アドミッションオフィスにお問い合わせください。



名古屋大学